

# J Aバンクの地域密着型金融の取組みについて

平成 25 年 11 月

J Aバンク

J Aバンク（全国 J A，都道府県信用農業協同組合連合会，農林中央金庫）では，農業と地域社会に貢献するため，平成 22～24 年度の J Aバンク中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでまいりました。最近の地域密着型金融の取組事例について取りまとめましたので，ご報告いたします。

## 目 次

### A 農山漁村地域の活性化のための融資を始めとする支援

#### 1 農業融資商品の適切な提供・開発

(1) 大型農業生産法人及びTMRセンターの設立・運営による生乳増産への取組みと金融支援	(北海道) J A東宗谷	P5
(2) 『農業経営振興資金』による緊急支援	(群馬県) J A孺恋村	P6
(3) エコ関連商品について	(埼玉県) J Aあだち野	P7
(4) 鎌ヶ谷市農業災害対策資金・緊急災害対策資金	(千葉県) J Aとうかつ中央	P8
(5) 千葉市農業後継者対策資金	(千葉県) J A千葉みらい	P9
(6) 農業経営支援資金の取扱について	(東京都) J Aマインズ	P10
(7) J Aバンク神奈川利子助成の実施	(神奈川県) J Aバンク神奈川	P11
(8) 「J A農機ハウスローン」～農業者応援キャンペーン～	(神奈川県) J Aバンク神奈川	P12
(9) 平成 2 4 年豪雪災害等復旧支援資金の創設	(新潟県) J Aバンク新潟県信連	P13
(10) 新資金の創設	(石川県) J Aバンク石川	P14
(11) 乳牛導入資金	(長野県) J A信州諏訪	P15
(12) 農業チャレンジ資金	(京都府) J A京都	P16
(13) 農業経営特別対策資金の対応	(京都府) J A京都やましろ	P17
(14) J Aバンク京都農業被害支援利子補給事業	(京都府) J Aバンク京都信連	P18
(15) 担い手応援当農資金の提供	(兵庫県) J Aたじま	P19
(16) 担い手支援資金の創設	(兵庫県) J A兵庫六甲	P20
(17) 豪雪等被害復興支援資金	(奈良県) J Aならけん	P21
(18) 担い手の経営のライフステージに応じた支援	(岡山県) J Aつやま	P22
(19) 農業法人への金融関係の支援	(広島県) J A広島中央	P23
(20) アグリシードファンドを活用した資本提供の取組み	(山口県) J A南すおう	P24
(21) 農業生産法人へのアグリシードファンド提案	(佐賀県) J Aバンク佐賀	P25
(22) 平成 23/24 年産さとうきび生産農家緊急支援資金の創設	(沖縄県) J Aおきなわ	P26
(23) 平成 24 年台風災害等復旧支援資金の創設	(沖縄県) J Aおきなわ	P27

#### 2 地域の農業者との関係を強化・振興する取組み

(1) 農業メイン強化先への取組	(栃木県) J Aなすの	P28
(2) 農業メインバンク機能の強化	(群馬県) J A佐波伊勢崎	P29
(3) 訪問活動強化への取組み	(群馬県) J A前橋市	P30
(4) 営農経済渉外（T A C）の農業融資の取組	(埼玉県) J Aあさか野	P31
(5) ふるさと野菜の直売フェア	(埼玉県) J A戸田市	P32
(6) 信用部と営農サポートセンターとの連携	(山梨県) J Aフルーツ山梨	P33
(7) 担い手金融リーダーの設置	(静岡県) J A大井川	P34
(8) 担い手支援と担い手優遇措置を活用した積極的 J A 事業の利用推進	(岡山県) J A勝英	P35

(9) 事業間連携の取組み	(愛媛県) JAうま	P37
(10) 担い手先への訪問基盤の強化	(愛媛県) JA松山市	P38
(11) 事業間連携による農業者ニーズの把握	(鹿児島県) JAそお鹿児島	P39

### 3 農業経営管理支援事業

(1) 農家経営再建	(秋田県) JAあきた白神	P40
(2) 経営不振農家支援	(秋田県) JA秋田みなみ	P41
(3) 農家経営改善対策委員会の活動について	(秋田県) JA大潟村	P42
(4) 営農再生プラン策定により経営改善を図り、農業経営の継続を希望する農家に対する長期・低金利の資金対応	(群馬県) JA甘楽富岡	P43
(5) 相談業務への取組	(兵庫県) JAあかし	P44
(6) 地元関係機関と連携したコンサルティング	(島根県) JAバンク島根	P45
(7) コンサルティング機能発揮による農業者の経営サポート	(熊本県) JAかみましき	P46
(8) 経営不振先に対するコンサルティング機能の発揮	(鹿児島県) JAさつま日置	P47
(9) 負債農家に対する個別カウンセリング及び経営改善指導業務	(鹿児島県) JA肝付吾平町	P48

### 4 農林水・商工連携にかかる商談会等開催

(1) 東北復興商談会の開催	(宮城県) JAバンク宮城	P49
(2) 6次産業化への取組み	(福島県) JAたむら	P50
(3) 北陸商談会の開催	(富山県) JAバンク富山	P51
(4) なら産彩 拡大推進事業マッチング商談会	(奈良県) JANならけん	P52
(5) ビジネスマッチングの取組み	(愛媛県) 愛媛県信連	P53
(6) ビジネスマッチングを通じた生産者と関係業者を繋げる取組み	(熊本県) JAやつしろ	P54

## B 担い手のライフサイクルに応じた支援

### 1 新規就農者の支援

(1) 行政・系統が一体となった空知ワイン振興への取組み	(北海道) JAいわみざわ	P55
(2) 地域との連携による新規就農支援	(静岡県) JA伊豆の国	P56
(3) 新規就農者・後継者向け教育施設での講師対応	(鹿児島県) JA鹿児島県信連	P57
(4) 新規就農者ローンの創設	(沖縄県) JAおきなわ	P58

### 2 セミナー・講演会等の開催

(1) 第1回JAバンク岩手農業法人経営者セミナー	(岩手県) JAバンク岩手	P59
(2) 農業法人経営セミナー開催	(宮城県) JAバンク宮城	P60
(3) JAバンク山形県農業経営セミナー	(山形県) JAバンク山形県	P61
(4) 第6回農業法人経営者セミナー	(新潟県) JAバンク新潟県信連	P62
(5) 資産セミナー	(静岡県) JANなんすん	P63
(6) 農業経営者セミナー	(滋賀県) JAバンク滋賀信連	P64
(7) 農業経営者セミナー	(香川県) JAバンク香川	P65
(8) 農業資金説明会の開催	(鹿児島県) JAあいら	P66

## C 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

### 1 被災者への支援

(1) 降雹被害農家に対する融資対応	(岩手県) JAいわて南	P67
(2) JAバンク自然災害対応特別資金の取扱い開始及びJAバンク 自然災害対応特別資金利子補給実施要領の制定について	(岩手県) JAバンク岩手	P68
(3) 暴風・豪雪被害に伴う融資対応	(山形県) JAバンク山形県	P69
(4) 被災農家支援の取組について	(福島県) JA伊達みらい	P70
(5) 平成23年度東日本大震災復旧特別資金の創設	(福島県) JA東西しらかわ	P71
(6) 豪雨被害を受けた地域農業者に対する金融支援	(福岡県) JAみい	P72

### 2 地域住民の農業に対する理解促進

(1) 有畑小学校の食育活動	(青森県) JA十和田おいらせ	P73
(2) 青年部七戸支部の食育活動	(青森県) JA十和田おいらせ	P74
(3) おぼこアグリスクール	(秋田県) JA秋田おぼこ	P75
(4) いわき農山村ふれあい交流事業	(福島県) JAいわき市	P76
(5) あぐりスクール	(栃木県) JA佐野	P77
(6) 福井県JAバンク食農金銭教育応援事業	(福井県) 福井県信連	P78
(7) 食農教育活動	(山梨県) JAふえふき	P79
(8) 食農教育活動	(静岡県) JAあいら伊豆	P80
(9) ふれあい田んぼ教室	(愛知県) JANあごや	P81
(10) 食農体験学習の取組み	(愛知県) JA西三河	P82
(11) JA鳥羽志摩あぐりスクール	(三重県) JA鳥羽志摩	P83
(12) 「JA草津市食農教育農業図画展」の開催	(滋賀県) JA草津市	P84
(13) 「ふれあい農園」で農と地域に密着	(兵庫県) JA兵庫西	P85
(14) 「たつのハートごはん」イベント	(兵庫県) JA兵庫西	P86
(15) 子供向け金銭教育セミナーの実施	(和歌山県) JAバンク和歌山	P87
(16) 親と子の野菜スクール	(広島県) JA佐伯中央	P88
(17) 食農体験学習	(広島県) JA三原	P89
(18) JA三次ちゃぐりんキッズクラブ	(広島県) JA三次	P90
(19) JAバンク協調型事業	(山口県) JA山口宇部	P91
(20) ちびっこ倶楽部	(山口県) JA周南	P93

## D その他

### 1 地域貢献・社会に根ざした商品提供

(1) JA子育て定期積金	(栃木県) JA下野	P94
(2) ふるさと応援! 「JA足利エール定期貯金」 & JA足利からお贈りする農業資金プラン「小口農業資金」	(栃木県) JA足利	P95
(3) 緑のトラスト定期貯金	(埼玉県) JAいるま野	P96
(4) 農業体験懸賞付定期積金	(埼玉県) JAいるま野	P97
(5) 子育て応援定期貯金・定期積金	(埼玉県) JAほくさい	P98
(6) 子育て応援定期積金	(埼玉県) JA埼玉中央	P99

(7) 子育て支援への取り組み	(東京都) J A世田谷目黒	P100
(8) 子育て応援定期積金 みらい夢計画	(東京都) J A東京みらい	P101
(9) 地域農業応援資金「耕しタイゾーさん」の創設	(福井県) 福井県信連	P102
(10) 平成24年度秋冬キャンペーン	(長野県) 長野県 J Aバンク	P103
(11) 市民女子サッカークラブ『伊賀FCくノ一』応援企画	(三重県) J A伊賀北部	P104
(12) 「農業体験付貯金(じゃがいもオーナー貯金)」	(兵庫県) J A加古川市南	P105
(13) 個人定期積金「野菜倶楽部」の販売	(兵庫県) J A兵庫西	P106
(14) 生産物出荷者限定個人定期積金「ほほえみがえし」の販売	(兵庫県) J A兵庫西	P107
(15) 「黒田官兵衛定期貯金」の販売とそれに伴う寄付金贈呈について	(兵庫県) J A兵庫西	P108
(16) ふぁ～みん食農教育支援金	(兵庫県) J A兵庫南	P109
(17) J Aバンク和歌山の「ピンクリボン運動」	(和歌山県) J Aバンク和歌山	P110
(18) J Aバンク和歌山の「子育て応援定期・定積」	(和歌山県) J Aバンク和歌山	P111
(19) 新エコ割	(香川県) J Aバンク香川	P112
(20) みやざき農商工連携応援ファンドへの融資	(宮崎県) J A宮崎信連	P113

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 大型農業生産法人及びTMRセンターの設立・運営による生乳増産への取組みと金融支援
 JA名 JA東宗谷（北海道）

1 動機 (経緯)	当地域も後継者不足や離農などにより酪農家戸数が減少傾向にありますが、当JAは行政等関係機関と連携した中、地域の酪農振興を目指し、出荷乳量を維持・増産するため、大型農業生産法人（経産牛 300～600 頭規模）及びTMRセンターの設立・運営への各種取組み・金融支援を積極的に行っており、出荷乳量の増産などに実績を上げています。
2 概要	(1) 大型農業生産法人の設立支援 地域における酪農産業の確立を目指すため、核となる農業生産法人の設立・育成が必要であると考え、平成15～20年にかけて、5戸の大型農業生産法人を設立してきました。JAは設立の相談受付や運営支援を行います。 (2) TMRセンターの設立支援 協業化のメリットを活かし組合員の規模拡大を支援するため、構成員自らが主体となる5つのTMRセンターの設立支援を行ってきました。 (3) 運営支援の取組み ①規模拡大を支援するJA独自の貸出資金の創設 ・H17年 規模拡大経営資金（規模拡大等に伴う運転資金） ・H20年 農業雇用者宿泊施設資金（雇用者の宿泊施設の建設資金） ②財務基盤強化策としてアグリシードファンドを導入 ・創業赤字及び突発的な事故・疾病による被害額へのファンド活用 ③地域の酪農振興会との連携による酪農研修生や実習生への支援、新規就農者への支援 ④経営管理や金融対策として、JA・公庫・信連三者による実績点検実施
3 成果 (効果)	(1) 出荷乳量の増加 当JA管内における酪農家戸数が減少している中、出荷乳量は平成24年2月末の目標乳量 75,632 t に対して、実績は 76,900 t で計画比+1,268t となりました。 (2) 大型農業生産法人及びTMRセンター設立の効果 TMRセンターの設立により草地管理や飼料収穫・調製が集約され、個々の酪農家の規模拡大が可能となり乳量の増加に繋がりました。また、労働が集約・分業化され、休暇の取得が可能となったことや非農業者の雇用を新たに創出するなど、地域雇用の安定化を図ることができました。
4 今後の予定（課題）	課題としては、創業赤字の農業生産法人やTMRセンターの経営改善、乳飼比の改善があげられます。対応策としては、各農家の規模拡大及び新規就農者の受入を行うことで、TMRセンターのTMR販売数量及び売上高増加につながり、これにより、TMRの単価引下げも可能となり、各構成員農家の乳飼比削減及び経営改善も期待できます。

## 地域密着型金融の取組事例

## タイトル 『農業経営振興資金』による緊急支援

J A 名 J A 嬭恋村 (群馬県)

1 動機 (経緯)	<p>管内では高原地域の特性を生かしたキャベツの生産が盛んであり、夏秋キャベツの生産量は全国一を誇る産地です。JAでは販売促進企画の展開や消費拡大の活動を行うなど、消費を促進する努力を行っていますが、24年産価格は平均価格を大幅に下回って推移し、単年度の収益悪化が次年度に向けた再生産を困難とする状況となりました。このため一時的な資金繰り悪化に対処し、経営安定化を図るための支援策として「農業経営振興資金」を制定し、農業生産資材の購入等に対する緊急的な資金対応を行いました。</p> <p>資金制定にあたっては、急な要望にもかかわらず管内行政のご理解、ご協力により利子補給を頂き、又JAの自助努力と合わせ、低金利による対応が実現できました。</p>
2 概要	<p>(目的) 天候不順(災害)等により農産物の出荷若しくは価格に影響を受けた農業者に対して、経営に必要な資金を貸付ける事により、農業経営の安定・振興を図る事を目的とする。</p> <p>(貸付対象者) 農業経営を営む個人または法人。(団体を含む)</p> <p>(資金使途) 農業経営に必要な資金とする。(負債整理は除く)</p> <p>(貸付方式) 証書貸付とする。</p> <p>(貸付期間) 5年以内とする。</p> <p>(償還方法) 元金均等償還(年賦)</p> <p>(貸付限度額) 1,000万円以内とし、万円単位とする。</p> <p>(貸付利率) JA所定の金利(農業近代化資金の基準金利と同率とする) 但し、嬭恋村より利子補給を受けた場合は、その利子補給率を控除した利率とする。</p> <p>(保証及び担保) (1)群馬県農業信用基金協会の保証(2)定期貯金</p>
3 成果 (効果)	<p>平成24年11月から平成25年2月までの間を申込期間に設定し、資金相談・対応を行いました。資金対応にあたっては、次年度の営農計画も見据え、農業経営に計画性をもって取組めるよう融資実行を行いました。</p> <p><b>【実績】</b> 貸付先：79件 貸出金額：451百万円</p>
4 今後の 予定(課題)	<p>組合員を守り、地域農業を発展させるため、農業生産・経営に影響を及ぼす事態が生じた場合は、継続して支援対策に取り組みます。また今回のような緊急的な対応だけでなく、通常時の資金対応についても、より利便性が高く、利用者ニーズに沿った資金設定を検討します。</p> <p>今後とも各関係機関と連携を図りつつ、組合員の期待に応えられるよう取り組んでまいります。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル エコ関連商品について JA名 JAあだち野 (埼玉県)

1 動機 (経緯)	当組合では、農業協同組合の理念「環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。」に基づき平成22年10月より自然環境にやさしい「エコ関連」の融資商品に取り組んでいます。
2 概要	商品名 : JAリフォームローン (エコ) JAエコカーローン、 JA小口ローン (エコ) 商品概要 : ハイブリット車、電気自動車、太陽光発電設置、高効率給湯器購入 省エネ家電の購入等に係る費用の資金。 貸出利率 : JAリフォームローン (エコ) 最大1.00%優遇 JAエコカーローン JA所定の利率 (固定) JA小口ローン (エコ) 最大1.700%優遇 各保証料 0.100%~0.200%優遇 貸出期間 : JAリフォームローン 10年6ヶ月 JAエコカーローン 7年 JA小口ローン 5年 保証 : 埼玉県農業信用基金協会保証を付保。 <p style="text-align: right;">※貸出利率の優遇内容は平成24年度取組状況です</p>
3 成果 (効果)	平成22年10月より取扱開始、休日ローン相談会、ホームページ等でPR活動等を行い、平成25年3月末までに計18件3,412万円の貸出実績がありました。
4 今後の 予定 (課題)	今後も地域や環境への貢献として引き続き多くの組合員に利用して頂けるよう考えていきたいと思ひます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 鎌ヶ谷市農業災害対策資金・緊急災害対策資金 JA名 JAとうかつ中央 (千葉県)

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年夏季高温により、梨(「新高」種)の生育が悪化したことから減収による資金不足を補うため鎌ヶ谷市との間で「鎌ヶ谷市農業災害対策資金」を制定し、平成 24 年度についても、同資金の取扱いを継続いたしました。</li> <li>・また、東日本大震災による緊急災害対策資金についても、被災者支援のため、平成 24 年度、取扱いを継続いたしました。</li> </ul>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鎌ヶ谷市農業災害対策資金」は、鎌ヶ谷市と JA で農業災害対策資金の取り扱いを契約し、鎌ヶ谷市と JA でそれぞれ利子補給を行い、低金利で融資対応いたします。 基準金利 3%⇒利子補給率 鎌ヶ谷市 2.5%, JA 0.25%, 債務者負担は 0.25%となっております。</li> <li>・東日本大震災による緊急災害対策資金については、震災により被害を受けた農業者の経営安定に必要な運転資金を融資対応いたします。</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 24 年度は、梨の生育が順調で被害なく、農業災害対策資金の申込はありませんでした。</li> <li>・東日本大震災による緊急災害対策資金についても、被災者からの申込みなく、平成 24 年 12 月 28 日をもって取扱を終了させていただきました。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業災害対策資金については、今後、農業災害が起きた場合には即時対応いたします。</li> </ul>

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 千葉県農業後継者対策資金                      JA名 JA千葉みらい (千葉県)

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和 46 年 4 月に農業後継者への支援資金として創設された「千葉県農業後継者対策資金」(平成 23 年実績 1 件 750 万円) のニーズの増加をはかる為、千葉市と協議し、借入資格年齢を引上げるなど一部改正をした。</li> </ul>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸付限度額を 750 万から 1,800 万(貸付額の総額が、貸付限度額に達するまで、複数回利用可能)に改正。</li> <li>・借入資格における年齢を 35 歳以下から 55 歳以下に改正。</li> <li>・基準利率を、農業近代化資金から農業経営基盤強化資金に見直しをはかり、引き続き千葉市の利子補給により利用者は末端利用利率 0%となる。</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 件の利用相談を受付、検討中である。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、行政また担い手対策関係部署と連携し取り組むとともに、渉外担当者を中心に情報収集を行いPRをしていく。</li> </ul>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 農業経営支援資金の取扱について JA名 JAマインズ(東京都)

1 動機 (経緯)	当組合では、正組合員およびその農業後継者を対象に、農業を営むために必要な資金を融資し、経営支援を図ることを目的として平成19年2月に「農業経営支援資金」の投入を行いました。
2 概要	貸出対象者 正組合員および農業後継者 対象資金 農業に関連する構築物 農機具の取得資金及び取得に伴う必要資金 貸出限度額 10万円～2,000万円 貸出期間 農業用構築物/10年以内 農機具類取得/5年以内 その他/3年以内 最長11年(1年の元金据置を含む) 貸出利率 スーパー定期貯金(1年・300万円未満)+0.4% 保証人 連帯保証人1名(農業後継者または配偶者等) 担保 不要(原則徴求しない)
3 成果 (効果)	指導課とともに連携をとりながら、貯金担保融資商品(担保定期貯金+0.5%)よりも低金利な同商品を推進した結果、平成24年度は5件1,970万円の貸出実績がありました。
4 今後の 予定(課題)	今後も地域農業に貢献するため、商品の要項・要領を農業者のニーズを繁栄した継続的な商品改良を図り、農業者とともに地域振興に努めます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル JAバンク神奈川利子助成の実施

JA名 JAバンク神奈川（神奈川県）

1 動機 (経緯)	担い手経営体などの経営体質強化に取り組む農業者を支援するため、神奈川県下JAから農業資金の融資を受けられた農業者を対象に一定期間の利子助成を行う「JAバンク神奈川利子助成」を行っております。 全国で行っている「JAバンク利子助成」では、農業近代化資金（500万円以下）・JA農機ハウスローン（100万円未満）は対象外となりますが、神奈川県では、借入金額の小さい案件も少なくないため、創設したものです。
2 概要	全国で行っている「JAバンク利子助成」の対象外となる、農業近代化資金（500万円以下）・JA農機ハウスローン（100万円未満）のお借入をされた農業者に対して最大1%の利子助成を行うものです。
3 成果 (効果)	平成24年度は17件、利子助成額11,358円（対象貸出金残高 約900万円）の申請があり、申請通り承認しました。
4 今後の 予定（課題）	助成対象期間平成24年4月から平成28年3月までとしており、引き続き利子助成を行っていきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 「JA農機ハウスローン」～農業者応援キャンペーン～

JA名 JAバンク神奈川（神奈川県）

1 動機 (経緯)	農業専門金融機関として、担い手へのきめ細やかな金融サービスの提供に向け、JAバンク神奈川一体となって担い手のニーズに応えるため、「JA農機ハウスローン」～農業者応援キャンペーン～を実施しました。
2 概要	平成 24 年度は夏（6 月～9 月）と冬（12 月～3 月）の 2 回、8 ヶ月間、通常時よりも金利・保証料を引き下げるものです。（金利：JA 所定利率（固定））
3 成果 (効果)	本キャンペーン中の実行実績は夏に 40 件、96,710 千円、冬に 34 件、57,730 千円あり、平成 24 年度全体の実行金額の 63%を占めています。
4 今後の 予定（課題）	平成 25 年度も平成 24 年度同様に夏（6 月～9 月）と冬（12 月～3 月）の 2 回、キャンペーンを実施します。

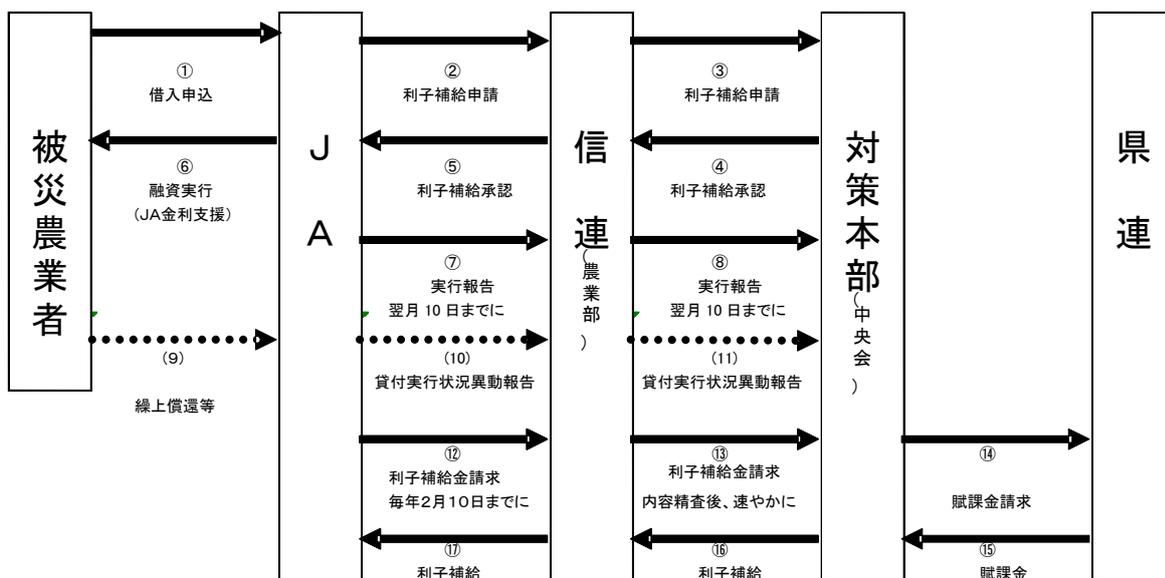
## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル 平成24年豪雪災害等復旧支援資金の創設

JA名 JAバンク新潟県信連（新潟県）

1 動機 (経緯)	平成24年の豪雪災害等により被害を受けた農業者に対し、その復旧等に必要な資金を融通することにより、経営の早期再建と安定化に資することを目的として「平成24年豪雪災害等復旧支援資金」を創設いたしました。
2 概要	① 取扱窓口 : 新潟県内のJA ② 融資対象者 : 豪雪災害等により直接的・間接的に被害を受けられた農業者。 (平成24年の豪雪被害、4月・8月に発生した暴風等による被害) ③ 利子補給 : 融資実行後5年間は、JAグループの利子補給により、実質的な貸付金利は年0.00%となります。
3 成果 (効果)	県下26JAのうち18JAで利用がありました。 平成24年度実行件数 209件 平成24年度実行金額 287百万円
4 今後の 予定 (課題)	平成25年の豪雪および暴風災害等により被害を受けた農業者については、「平成25年豪雪災害等復旧支援資金」を創設して対応しています。

## 「平成24年地震災害等復旧支援資金」利子補給事務の流れについて



## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 新資金の創設

 JA名 JAバンク石川（石川県）

1 動機 (経緯)	借入者の信用力に応じて「過度に保全に依存しない、機動的な運転資金」を融通することにより、地域の担い手支援を図ることを目的として、「農業アシスト資金」を創設しました。
2 概要	資金使途：農業生産および農産物の加工、流通、販売等に必要な運転資金 (農信基保証) 対象者：認定農業者・集落型経営体（法人・個人大型経営者・集落営農組織等） 貸出期間：1年 融資方法：当座性極度貸付 貸出限度額：年商の50%と1,000万円のいずれか低い額
3 成果 (効果)	25年度実行へ向けた相談の受付（24年度第4四半期に創設）
4 今後の 予定（課題）	農機フェスタ、農業資金研修等におけるPRによる活用増

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 乳牛導入資金 JA名 JA信州諏訪（長野県）

1 動機 (経緯)	酪農経営者の経営維持・拡大を図るため、初妊牛及び経産牛を導入する資金の貸付並びに貸付利子の助成を行うことにより、乳牛更新時の酪農経営者負担を軽減し、乳量の確保と経営の安定に資することを目的に資金を創設しました。
2 概要	乳牛の更新が計画的にできない酪農経営者が、初妊牛及び経産牛を導入する資金として一資金500万円以内、本資金累計残高1,000万円以内、貸出期間は3年以内としてお取扱いしております。 また、3年間を限度に、組合が利子補給を行っております。営農部門畜産課は、当該酪農経営者の「酪農事業設計書」を作成し、経営安定のための指導を行っております。
3 成果 (効果)	貸付先2件、貸出金額482万円
4 今後の 予定(課題)	今後においても、金融部門、営農部門と連携を強化し、酪農経営者の経営維持・安定を図るべく資金対応を行っていきます。

## 地域密着型金融の取組事例

タイトル 農業チャレンジ資金

JA名 JA京都（京都府）

1 動機 (経緯)	地域農業の振興と発展をめざし、農業者等の経営安定や規模拡大のため、農産物の販売・加工等をはかること、並びに農業者等の生産にかかる異常気象や、自然災害等における復旧支援を目的とする。																											
2 概要	農業チャレンジ資金の概要 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">貸付対象者</td> <td colspan="2">                     ・農業を営む個人及び法人                      ただし、農業後継者及び新規就農者については、理事長が適当と認めたものとする。                      ・法人格を有しない団体で3人以上の組合員で構成されている団体                      ※どちらも組合員であること                 </td> </tr> <tr> <td>資金使途</td> <td colspan="2">農畜産物の生産や販売及び加工に必要な運転資金や施設等設備資金及び、異常気象や自然災害と要因とする再生支援に必要な資金</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">限度額／ 貸付期間 ／ 据置期間</td> <td>運転資金</td> <td>500万円以内／7年以内／1年以内</td> </tr> <tr> <td>施設等設備資金</td> <td>1000万円以内／15年以内(但し、建物・機械は、15年以内で且つ、法定耐用年数以内とする)／3年以内</td> </tr> <tr> <td>災害対策資金</td> <td>200万円以内／5年以内／1年以内</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">貸付利率</td> <td>運転資金</td> <td>信連短期プライムレート+0.5% (変動金利型)</td> </tr> <tr> <td>施設等設備資金</td> <td>信連短期プライムレート (変動金利型)</td> </tr> <tr> <td>災害対策資金</td> <td>信連短期プライムレート-0.5% (固定金利型)</td> </tr> <tr> <td>償還方法</td> <td colspan="2">元金均等若しくは元利均等償還 (毎月、半年賦、年賦償還)</td> </tr> <tr> <td>担保・保証</td> <td colspan="2">京都府農業信用基金協会の保証を条件とする。また、貸付額や資金使途により、保証人・不動産担保の徴求を求めることがある。</td> </tr> </table> <p>※利息は毎月及び年2回徴収を原則とする。 保証料は前納一括支払いを原則とする。</p>		貸付対象者	・農業を営む個人及び法人 ただし、農業後継者及び新規就農者については、理事長が適当と認めたものとする。 ・法人格を有しない団体で3人以上の組合員で構成されている団体 ※どちらも組合員であること		資金使途	農畜産物の生産や販売及び加工に必要な運転資金や施設等設備資金及び、異常気象や自然災害と要因とする再生支援に必要な資金		限度額／ 貸付期間 ／ 据置期間	運転資金	500万円以内／7年以内／1年以内	施設等設備資金	1000万円以内／15年以内(但し、建物・機械は、15年以内で且つ、法定耐用年数以内とする)／3年以内	災害対策資金	200万円以内／5年以内／1年以内	貸付利率	運転資金	信連短期プライムレート+0.5% (変動金利型)	施設等設備資金	信連短期プライムレート (変動金利型)	災害対策資金	信連短期プライムレート-0.5% (固定金利型)	償還方法	元金均等若しくは元利均等償還 (毎月、半年賦、年賦償還)		担保・保証	京都府農業信用基金協会の保証を条件とする。また、貸付額や資金使途により、保証人・不動産担保の徴求を求めることがある。	
貸付対象者	・農業を営む個人及び法人 ただし、農業後継者及び新規就農者については、理事長が適当と認めたものとする。 ・法人格を有しない団体で3人以上の組合員で構成されている団体 ※どちらも組合員であること																											
資金使途	農畜産物の生産や販売及び加工に必要な運転資金や施設等設備資金及び、異常気象や自然災害と要因とする再生支援に必要な資金																											
限度額／ 貸付期間 ／ 据置期間	運転資金	500万円以内／7年以内／1年以内																										
	施設等設備資金	1000万円以内／15年以内(但し、建物・機械は、15年以内で且つ、法定耐用年数以内とする)／3年以内																										
	災害対策資金	200万円以内／5年以内／1年以内																										
貸付利率	運転資金	信連短期プライムレート+0.5% (変動金利型)																										
	施設等設備資金	信連短期プライムレート (変動金利型)																										
	災害対策資金	信連短期プライムレート-0.5% (固定金利型)																										
償還方法	元金均等若しくは元利均等償還 (毎月、半年賦、年賦償還)																											
担保・保証	京都府農業信用基金協会の保証を条件とする。また、貸付額や資金使途により、保証人・不動産担保の徴求を求めることがある。																											
3 成果 (効果)	平成25年3月末実績 件数 1件 金額 0.4百万円																											
4 主な貸 付対象内 容等	1. 農産物の販路拡大にかかる直販所の整備拡大資金やその運転資金の提供を行う。 2. 農産物の販売促進にかかる加工設備導入等の資金やその運転資金の提供を行う。 3. 異常気象の多発に対応するため、災害復旧支援の資金準備を行う。																											

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 農業経営特別対策資金の対応 J A 名 J A 京都やましろ (京都府)

1 動機 (経緯)	農業環境の悪化、農産物価格低迷等で、農業経営に深刻な影響を受けておられる組合員に対し、農業経営の維持安定を図る目的で、低利の運転資金「農業経営資金（特別対策）」による対応をおこないました。																															
2 概要	農業経営資金（特別対策）の概要 <table border="1" data-bbox="384 573 1439 1014"> <tr> <td data-bbox="384 573 596 674">貸付対象者</td> <td colspan="3" data-bbox="604 573 1439 674">                             ・ 農業者（貸付時 20 歳以上最終償還時 78 歳未満）                              ・ 前年度農業収入 150 万円（税込）以上の組合員                         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 685 596 763">資金使途</td> <td colspan="3" data-bbox="604 685 1439 763">                             農業運転資金（燃料費、肥料代、農薬代、資材費、雇用労賃、動力・光熱費、処理加工代）                         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 775 596 819">限度額／期間</td> <td colspan="3" data-bbox="604 775 1439 819">300 万円以内／3 年以内（据置無し）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 831 596 864">貸付金利</td> <td colspan="3" data-bbox="604 831 1439 864">J A 所定利率（固定金利）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 875 596 909">返済方法</td> <td colspan="3" data-bbox="604 875 1439 909">元金・元利均等返済（年 1 回、年 2 回、毎月返済）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 920 596 954">担保／保証人</td> <td colspan="3" data-bbox="604 920 1439 954">原則無担保・無保証人（京都府農業信用基金協会保証が必要）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 965 596 1010">保証料</td> <td colspan="3" data-bbox="604 965 1439 1010">0.5%（貸付時一括先払い）</td> </tr> </table> <p data-bbox="379 1021 1439 1193">                     ※平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日の期間において上記資金で対応する予定です。（貸付対象者を前年度農業年収 150 万円（税込）以上の組合員とするとともに、基金協会保証を付さないプロパー資金や共済担保貸付での対応もおこないます）。                 </p>				貸付対象者	・ 農業者（貸付時 20 歳以上最終償還時 78 歳未満） ・ 前年度農業収入 150 万円（税込）以上の組合員			資金使途	農業運転資金（燃料費、肥料代、農薬代、資材費、雇用労賃、動力・光熱費、処理加工代）			限度額／期間	300 万円以内／3 年以内（据置無し）			貸付金利	J A 所定利率（固定金利）			返済方法	元金・元利均等返済（年 1 回、年 2 回、毎月返済）			担保／保証人	原則無担保・無保証人（京都府農業信用基金協会保証が必要）			保証料	0.5%（貸付時一括先払い）		
貸付対象者	・ 農業者（貸付時 20 歳以上最終償還時 78 歳未満） ・ 前年度農業収入 150 万円（税込）以上の組合員																															
資金使途	農業運転資金（燃料費、肥料代、農薬代、資材費、雇用労賃、動力・光熱費、処理加工代）																															
限度額／期間	300 万円以内／3 年以内（据置無し）																															
貸付金利	J A 所定利率（固定金利）																															
返済方法	元金・元利均等返済（年 1 回、年 2 回、毎月返済）																															
担保／保証人	原則無担保・無保証人（京都府農業信用基金協会保証が必要）																															
保証料	0.5%（貸付時一括先払い）																															
3 成果 (効果)	農業経営資金（特別対策）の実行実績（前々年度まで） <table border="1" data-bbox="384 1256 1439 1402"> <thead> <tr> <th data-bbox="384 1256 483 1301"></th> <th data-bbox="491 1256 722 1301">22 年度</th> <th data-bbox="730 1256 962 1301">23 年度</th> <th data-bbox="970 1256 1201 1301">24 年度</th> <th data-bbox="1209 1256 1439 1301">累 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="384 1312 483 1357">件数</td> <td data-bbox="491 1312 722 1357">32 件</td> <td data-bbox="730 1312 962 1357">40 件</td> <td data-bbox="970 1312 1201 1357">11 件</td> <td data-bbox="1209 1312 1439 1357">83 件</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1368 483 1413">金額</td> <td data-bbox="491 1368 722 1413">6,303 万円</td> <td data-bbox="730 1368 962 1413">9,068 万円</td> <td data-bbox="970 1368 1201 1413">1,963 万円</td> <td data-bbox="1209 1368 1439 1413">17,334 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="379 1413 1439 1491">                     経営環境の厳しいなか低利の運転資金を提供し、農家の農業生産・販売に寄与しました。                 </p>					22 年度	23 年度	24 年度	累 計	件数	32 件	40 件	11 件	83 件	金額	6,303 万円	9,068 万円	1,963 万円	17,334 万円													
	22 年度	23 年度	24 年度	累 計																												
件数	32 件	40 件	11 件	83 件																												
金額	6,303 万円	9,068 万円	1,963 万円	17,334 万円																												
4 今後の 予定（課題）	地域農業の振興を図るため営農経済部門（T A C）との連携を強化することにより、農業者の資金ニーズを的確に把握し農業メインバンク機能の強化に努めます。																															

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル JAバンク京都農業被害支援利子補給事業

JA名 JAバンク京都信連(京都府)

1 動機 (経緯)	台風や大雪などの自然災害により、農業被害を受けた農業者等に対するJAの融資に利子補給を行い、金利負担軽減を図ることで農業経営の復興を支援することを目的としています。
2 概要	① 対象資金 ・自然災害により被害を受けた農業用施設等の復旧，改良等に必要な資金としてJAが定めた特別対策資金 ② 利子補給対象資金の貸出限度額 ・個人 200万円以内 ・法人・団体 500万円以内 ③ 利子補給の対象期間 ・3年以内 ④ 利子補給率 ・年1.0%以内
3 成果 (効果)	<利子補給実績(平成25年3月末)>  利子補給件数 : 21件(10,427千円) 利子補給額 : 98,988円
4 今後の 予定(課題)	自然災害による農業被害に対しては、今後もJAと連携を強化し機動的に資金面の支援を行い、農業経営の復興をサポートいたします。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 担い手応援営農資金の提供 JA名 JAたじま (兵庫県)

1 動機 (経緯)	JAたじまの担い手支援対策の一環として、資金供給面でのサポートを行う目的で平成20年度から取扱を開始した低利融資制度です。 農業資材の価格高騰等を受け、担い手農業者・認定農業者・米出荷農家等の営農を支援するため、営農資金店頭金利から最大 1.00% (注) の金利軽減を行っています。  (注) 最大 1.00%の軽減幅については、金利情勢によって毎月変動
2 概要	名称：JAたじま 担い手応援営農資金 貸出対象者：正組合員である個人 農業を営む組合員である法人、正組合員が主たる構成員である団体 ＊ 金利軽減の対象者 個人—各種生産部会員もしくはJAたじまに産米出荷を概ね100袋以上されている方 法人・団体—集落営農組合等の法人・団体 資金使途：農業用機械器具の取得・設備の導入・農業用資材購入・農用地の取得ならびに改良・造成・その他農業経営上必要な資金等幅広い資金需要に対応。 融資限度額：個人5千万円以内・団体1億円以内(平成24年度取扱限度額3億円) 融資期間：15年以内(資金使途により異なる) 金    利：固定金利
3 成果 (効果)	利用者からは「低利で資金調達出来る」等好評をいただいているほか、融資担当者・営農(TAC)職員・農機センター職員共同の研修・意見交換会が問う資金の農家への浸透に効果的であったことから、今後のJA内事業間連携の取組に繋がりたいと考えています。
4 今後の 予定(課題)	担い手農業者等の訪問について、営農部門職員(TAC)や支店融資担当職員による定期訪問を実施し、財務状況や資金ニーズを肌で感じ取ることにより、JAとしてタイムリーな資金対応を打ち出すことの出来る取組みを強化していくことが今後の課題として考えています。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 担い手支援資金の創設

J A 名 J A 兵庫六甲 (兵庫県)

1 動機 (経緯)	組合員の世代交代が進むなか、農業資金を利用する際に J A だけでなく他行にも並行して相談するような事例が見受けられるようになってきました。これまで J A に優位性があった農業資金においても次世代の組合員の要望に応え得る体制・商品性等が求められており、従来の農業資金とは異なる新しい資金を創る必要がありました。
2 概要	最高 5 0 0 万円までの無担保融資かつ低金利での運用を行うことで他行に負けない商品性を持たせています。また、把握した情報を基に経営相談センターや営農経済事業部の担当者と組合員とが相談して経営計画を作成することでコンサルティング機能を発揮し、併せて貸出枠を設定することにより迅速な融資を行うことで、組合員の信頼を獲得して組合員離れの防止および J A の総合利用に繋げることも目的にしています。
3 成果 (効果)	新しい形態の貸付であるため、当面は本店の担当部署を通じた取扱いに限定しています。平成 2 2 年度、平成 2 3 年度、平成 2 5 年度に各 1 件ずつ実績が上がり、今後も相談に応じて対応していきたいと考えています。
4 今後の 予定 (課題)	現在は本店の担当部署が中心となって対応していますが、スキームを定着させることによって、最終的には各店舗により対応可能な体制づくりを進めたいと考えています。また、組合員満足を徹底するためのフォロー活動や、様々な要望に応え得る職員のスキルアップも検討しています。

## ① 営農相談から資金ニーズを把握

組合員と経営計画の作成

## ② 記帳代行

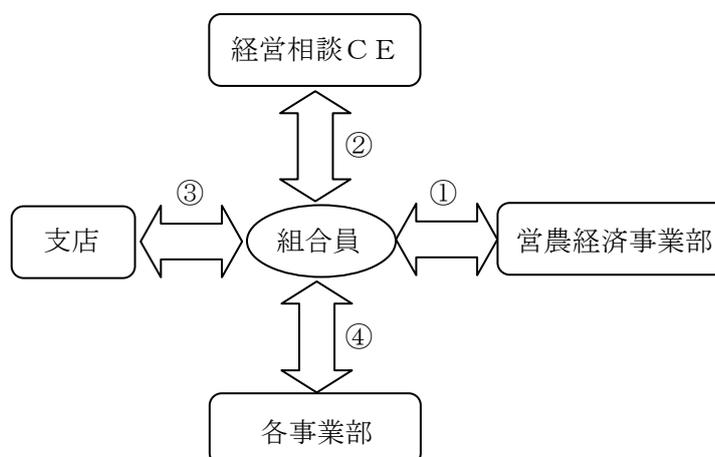
組合員と経営計画の作成

## ③ 経営計画受けた迅速な融資

自己査定によるリスク管理

## ④ J A への信頼増加

他の事業の利用促進



## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 豪雪等被害復興支援資金

 JA名 JAならけん (奈良県)

1 動機 (経緯)	平成25年1月14日の豪雪等によって農業損害を蒙った組合員に対し、前向きに経営再建を行うために必要な資金を融資するにあたり、「豪雪等被害復興支援資金」(アグリマイティ-資金) 融資要綱を制定しました。
2 概要	1. 対象者 ①組合員 ②豪雪等被害に遭った農業者 2. 資金使途 豪雪等被害における次の資金を対象とする。 ①農業用施設の再建費用等 ②運転資金 3. 貸付限度額 経営再建に必要な額の範囲内とする。 4. 貸付期間 ①設備資金7年以内(1年以内の据置期間を含む) ②運転資金3年以内(1年以内の据置期間を含む) 5. 貸付金利 JA所定の利率(固定金利) 6. 担保・保証 奈良県農業信用基金協会の保証を付保する。 ※取扱期間は、平成25年1月28日から平成25年6月末日までとする。
3 成果 (効果)	平成24年度については、ご相談がありませんでしたが、平成25年度に入りましてから、2件のご相談をいただいております。
4 今後の 予定(課題)	被災された方々には、資金面だけでなく人的支援も行い、早期復旧に向けた取り組みを行っています。 今後も、災害発生時には、緊急災害対策資金にすばやく対応し、組合員のご支援に努めてまいります。

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル 担い手の経営のライフステージに応じた支援

JA名 JAつやま (岡山県)

1 動機 (経緯)	当JA管内でも特に中山間地域においては、農業従事者の高齢化、農業後継者不足により地域農業の維持が難しく農地の保全管理が大きな問題となっています。 一方で少数ではありますが、農業生産法人が営農継続を行うことによりこの問題に対処しようとする動きも現れており、当JAとしてもこのような営農継続の取組みへの支援が必要と判断しています。
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の荒廃を防ぎ、かつ持続・発展可能な農業を目指して営農活動を継続する成長段階にある農業生産法人を、その成長段階に応じて支援します。</li> <li>・具体的には、成長段階にある農業生産法人を、関係団体と連携してJAグループ関連ファンドに出資の紹介を行うことで、成長のお手伝いに取り組んでいます。</li> </ul>
3 成果 (効果)	現在、具体的出資紹介に向けて、対象法人・関係団体と積極的に調整を実施しています。
4 今後の 予定 (課題)	関係団体と連携のうえ、紹介対象となる農業生産法人のニーズに対応してまいります。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 農業法人への金融関係の支援

JA名 広島中央（広島県）

1 動機 (経緯)	農業情勢の変化に伴い、農業の集約化を目的とした農事組合法人の設立が活発となってきた。(平成25年4月現在、32法人が設立されている) JAとして、営農・経済関係での取引はもちろんのこと金融関係での取引を行うことにより、法人との継続した取引を行うことを目的とした金融商品を開発する。
2 概要	平成19年2月、当座貸越商品として「担い手営農ローン」を販売し農事組合法人を中心に推進を行う。 農業生産資材等の支払いを迅速に行うための運転資金として、法人の経営面積に応じた極度額(最高1,500万円)を設定し融資を行う。(融資利率は組合所定の利率(固定金利)にて対応)
3 成果 (効果)	平成25年3月末現在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件数 5法人</li> <li>・極度額合計 3,370万円</li> <li>・残高 179万円</li> </ul>
4 今後の 予定(課題)	各地区のグリーンセンター(9グリーンセンター)に配属されている営農指導員が、毎月定期的に法人を訪問しており営農・経済関係の情報収集だけでなく、金融関係の情報も提供できるよう金融担当部署と連携した対応を行う。また、広島県信連・基金協会の協力を得て、金融担当(担い手金融リーダー)と未利用先を中心に訪問し啓蒙活動を行っていく。 新規に法人を設立される地区においては、営農部所属の担い手支援センター職員の協力を得て、「担い手営農ローン」について事前に説明を依頼する。

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル アグリシードファンドを活用した資本提供の取組み

JA名 南すおう (山口県)

1 動機 (経緯)	農業メインバンク機能強化の観点から農業法人に安定資本調達ニーズに適切に対応するための資本供与。
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人名 農事組合法人 柳井ダイヤモンドローズ</li> <li>・住 所 山口県柳井市余田 1407-3</li> <li>・創 業 平成 5 年</li> <li>・資本金 12,240 千円</li> <li>・主たる作目：花卉（バラ）</li> <li>・出資時期 平成 25 年 5 月</li> <li>・出資金額 1,000 千円</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培施設の屋根（シクスライト）の老朽化による張替え。</li> <li>・栽培力と生産効率の強化により、生産コストの削減につながり、安定的な収益の確保へと結びついた。</li> </ul>
4 今後の 予定（課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投資後の決算書等の確認や決算内容のヒアリングを行い、業況把握に努めるとともに、相談対応を継続し、リレーションシップ構築を図っていきます。</li> </ul>

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル 農業生産法人へのアグリシードファンド提案

## JA名 JAバンク佐賀 (佐賀県)

1 動機 (経緯)	JAバンク佐賀では、JAバンクを既にご利用いただいている農業者の方々に加え、これまでお付き合いの少なかった県内農業法人の皆様に対し、JAバンクがより一層お役に立ちたいとの思いから、JA・信連・農林中央金庫が連携して以下の取組みを実施しております。
2 概要	佐賀県内でご活躍いただいている農業者・農業法人の皆様に対し、JA・信連・農林中央金庫が連携しながら、訪問活動を実践しております。 訪問先では、農業資金のPRに加え、アグリシードファンド（アグリビジネス投資育成㈱による資本供与スキーム）等の提案を実施し、農業法人の皆様の経営体力向上や事業承継に対するニーズにお応えすべく取組みを行っています。
3 成果 (効果)	アグリシードファンドにつきましては、今般県内第1号案件をアグリビジネス投資育成㈱に対し、紹介実現することができたところ（平成25年上期に投資実行済み）。 また、JAとの関係が疎遠になっていた先に対して訪問することで、普段抱えておられるニーズをキャッチしたり、JAに対する期待等を幅広くうかがうことができました。農業資金のPR・アグリシードファンド等についても徐々に浸透することができていると感じております。
4 今後の 予定 (課題)	アグリシードファンドについては、既に多くの農業法人の皆様からご興味を持っていただいております。引き続き、農業法人への訪問活動を継続し、JAバンクとの関係強化に繋がるよう努めてまいります。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 平成 23/24 年産さとうきび生産農家緊急支援資金の創設

JA名 JAおきなわ（沖縄県）

1 動機 (経緯)	平成 23 年度に相継いだ台風被害、イネヨトウ等の害虫および冷害等、気象変化の影響により、本県基幹作物であるさとうきびが大幅な減産となりました。それに伴い、経営の維持・安定に支障をきたしたさとうきび農家を支援する目的で、当資金を創設いたしました。
2 概要	資金概要は以下のとおりです。 <b>【商 品 名】</b> 平成 23/24 年産さとうきび生産農家緊急支援資金 <b>【資 金 使 途】</b> 農業経営の維持・安定に必要な資金 <b>【貸付限度額】</b> ①平成 22/23 年産と平成 23/24 年産のさとうきび年度の販売額の差額又は 300 万円のいずれか少ない額 ②新規就農者および作付面積拡大・縮小した農家については、平成 23/24 年産の販売計画に基づく販売額と平成 23/24 年産のさとうきび年度の販売額の差額又は 300 万円のいずれか少ない額 <b>【貸 出 期 間】</b> 5 年以内（うち据置期間 1 年以内） <b>【金 利】</b> JA 所定利率（固定金利） <b>【担保・保証】</b> 担保・保証人は原則不要
3 成果 (効果)	平成 24 年 4 月 24 日より取り扱いを開始し、平成 25 年 3 月末時点で 297 件、267,880 千円の貸出実績となっております。
4 今後の 予定（課題）	今後も、災害等により被害を受けた農家組合員の経営安定化に向け、緊急支援資金の創設等の取組みを行い、支援して参ります。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 平成 24 年台風災害等復旧支援資金の創設

JA名 JAおきなわ（沖縄県）

1 動機 (経緯)	平成 24 年の台風等の自然災害により、農業経営の維持・安定が困難となった農業者に対し、緊急的に対応するために必要な資金を融通する目的で、当資金を創設いたしました。
2 概要	資金概要は以下のとおりです。 <b>【商 品 名】</b> 平成 24 年台風災害等復旧支援資金 <b>【資 金 使 途】</b> 台風等の被災により、農業経営の維持・安定が困難な農業者に対し緊急的に必要な資金 <b>【貸付限度額】</b> 平成 23 年度の販売実績の 30%または 150 万円のいずれか少ない額 <b>【貸 出 期 間】</b> 8 年以内（うち据置期間 3 年以内） <b>【金 利】</b> JA 所定利率（固定金利） <b>【担保・保証】</b> 担保・保証人は原則不要
3 成果 (効果)	平成 24 年 10 月 24 日より取り扱いを開始し、平成 25 年 3 月末時点で 252 件、284,820 千円の貸出実績となっております。
4 今後の 予定 (課題)	今後も、災害等により被害を受けた農家組合員の経営安定化に向け、緊急支援資金の創設等の取組みを行い、支援して参ります。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 農業メイン強化先への取組

JA名 JAなすの（栃木県）

1 動機 (経緯)	農業メインバンクとしての地位堅守、農業者満足度の向上を目的として、メイン強化先との、取引深耕（訪問・コミュニケーション進化等）に取組み、農業者のニーズを捕捉し多様化する農業者全体への金融対応力の強化を図ります。
2 概要	将来的な地域農業の担い手として関係を再構築・強化すべき農業者について、JA未取引先を含め「メイン強化先」と位置付け、JA内各部署との連携により、的確にニーズを捕捉し、より専門的・高度な農業金融サービスの提供・相談等を実施します。
3 成果 (効果)	選定したメイン強化先への訪問活動による情報収集、各部署との連携により総合JAの強みを発揮し、総合的に農業者のニーズに対応して行きます。
4 今後の 予定（課題）	規模の拡大、法人化が進む中、制度資金をはじめ、保証協会等との要項・要領の見直し。また、より専門的な知識の習得が必要なため、農林中央金庫が募集する農業トレーニー研修制度へ積極的に参加します。

## 地域密着型金融の取組事例

 タイトル 農業メインバンク機能の強化 J A 名 J A 佐波伊勢崎 (群馬県)

1 動機 (経緯)	<p>農業メイン強化先 (J A を利用されている優良顧客 以下「メイン強化先」) は、高齢化が進行し将来的に規模の縮小や相続を原因とした離農が進んでいます。これに対応するために新規就農者や後継者を育成し、将来のメイン強化先の拡大を図ることが課題となっています。</p> <p>そのためにはメイン強化先を中心とした組合員の農業経営の安定、生産力の向上と収益力の強化が重要であり、J A としても農業金融サービスを通じてメイン強化先との関係強化を図るとともに事業間連携による農業経営サポート体制を構築することが必要と考えています。</p>
2 概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メイン強化先を中心に農業資金ニーズにあった情報提供と取引関係の構築強化 (農業メイン強化先訪問・ニーズの把握)</li> <li>2. 農業資金ニーズにマッチングした商品、情報提供を的確に実施できる営農指導や法人融資などの知識を習得した人材を育成 (担い手金融リーダー育成)</li> <li>3. 来る世代交代に備え、営農経営資源を円滑に次世代に移転させるため、遺言書作成や相続相談体制の確立 (審査課と連携し相続相談を実施)</li> </ol>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合事業性を活かした事業間連携で農業経営に関する指導、経営診断、情報提供等を行う体制を整備し、メイン強化先との関係を強化しました。</li> <li>・組合員からの相続相談に対応し次世代へのスムーズな経営資源の移転をサポートし、次世代層との関係を強化しました。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<p>この先も正組合員数は農業者の高齢化と後継者不足で減少が見込まれています。また、農業法人や営農集団への態様の変化は増加しているものの、その構成員も高齢化が進んでいます。</p> <p>一方、農業後継者は I T などによる情報受発信により、ニーズは多様化・専門化し、J A に対する要求も高度化しています。</p> <p>今後も、メイン強化先及びその子弟との信頼関係の構築に努め、農業者ニーズに即した農業金融情報の提供や資金調達方法の提案等を支店担当者や信用渉外を通じて実行します。</p>

## 地域密着型金融の取組事例

 タイトル 訪問活動強化への取組み JA名 JA前橋市（群馬県）

1 動機 (経緯)	平成24年度より農業メイン強化先への訪問を行っており、農業者のサポート、ニーズの把握、利用率の向上、信頼関係の強化に努めております。 また、24年度の訪問活動の取組成果から今後の課題を認識し、次年度に向けて体制を整備に取り組みました。
2 概要	○平成24年度は以下の内容で、訪問活動に取り組みました。 (1) 活動目的 充実した訪問活動・推進活動の実施 (2) 活動内容 356先のメイン強化先へ月1回を目標に訪問 (3) 機構・体制 各支所内で営農経済担当と金融渉外担当から訪問担当者をそれぞれ選出。営農と金融が提携・情報共有して訪問活動を実施。 ○平成25年度へ向けての体制整備 24年度の強化先の選定は、売上高や信用取引実績などの過去の数字上での選定でした。実際に訪問してみると、既に廃業していたり規模を縮小していたり、数値と実態経営が乖離しているケースが多くありました。結果として、訪問内容も金融ニーズの喚起よりも、挨拶や現況調査等の簡易的な訪問活動が多くなってしまったことを踏まえ、次年度へ向けて以下の見直しを行いました。 (1) 訪問先の見直し 認定農業者や農業法人については業況を踏まえた上で追加し、昨年356先から378先へ拡充しました。 (2) 訪問間隔の見直し 昨年一月に1度の訪問から、25年度は四半期に1度以上の訪問を目標とし、訪問回数を減少させる代わりに一回の訪問内容の充実を図ります。
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先にJA職員の顔を覚えてもらえ、信頼関係を構築することができました。</li> <li>・相談件数が増加し適時に資金ニーズを把握し対応することができました。</li> </ul> 取組実績：【新規実行25件 2億1,700万円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制整備によりJA内も受け身の体制から攻めの体制へ転じつつあります。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶・現況の聞き出しのみに止まらず、金融ニーズを掘り下げ、実績検討会を通じたニーズや情報共有した連携の強化に向けて取り組みます。</li> <li>・支所内での営農と金融の連携に加え、本所職員と支所職員で同行訪問するなど本支所間での連携を強化します。</li> <li>・資金ニーズをクイックレスポンスで対応できるように徹底します。</li> <li>・新たな農業法人を開拓します。</li> </ul>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 営農経済渉外（TAC）の農業融資の取組 JA名 JAあさか野（埼玉県）

1 動機 (経緯)	○ 次世代への営農活動の円滑な継続を行うため、農業メインバンク機能の強化を重点取組項目と位置づけ、融資業務に対応できる営農経済渉外（TAC）を育成するとともに金融面でのサポートが必要となります。
2 概要	○ JA独自資金であるJA農業資金（担い手応援・制度資金）のPRにより利用度の向上を図っています。 ※無担保、融資額1,000万円まで、金利はJA所定の金利等 ○ TAC担当者4名に対し、各30先の重点推進先を設定して四半期に1度以上の訪問を義務付けることにより、農業融資のPRによる資金需要の発掘に取り組んでいます。 ○ 担い手金融リーダー（融資課長）とTAC農業融資担当者合同による、TAC農業融資担当者会議を四半期ごとに開催しています。 ○ 訪問実績について検証を行い、次回の活動につなげるべく協議・実践しています。
3 成果 (効果)	○ 組合員の営農経営について、より深く内容を理解することができるようになりました。 ○ 組合員の抱える問題点、JAへの要望等について聞き取りができるようになりました。 ○ 認定農業者制度の理解を深めメリットを組合員に伝え、相談できる提案が行えるようになりました。 ○ 平成24年度農業資金実績 17件 85,010千円
4 今後の 予定（課題）	○ 引き続き継続訪問を実施し、常に農業資金のPRをしていくことで更なる利用者の拡大を図ります。 ○ 行政と連携した認定農業者の増加を図ることが必要と考えます。 ○ 農業資金利用者だけでなく、営農・経営相談まで幅広く相談活動ができるTACの育成が必要と考えます。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル ふるさと野菜の直売フェア JA名 JA戸田市 (埼玉県)

1 動機 (経緯)	<p>都市型農業協同組合においては、地域の方々に農業協同組合の存在意義・価値を認識いただくことが困難であることが認められます。</p> <p>そこで地域に根差した農業協同組合・金融機関を広く認知していただくために、戸田市内生産の地場産野菜の販売と共に、併せて農業融資・住宅ローン・共済・葬儀の相談会を実施いたしました。</p> <p>また、住宅メーカー様（居宅・事業用物件）、全農様（野菜の販売）、ほか多くのメーカー様・関連業者様に出店いただきまして、戸田市農業協同組合を普段ご利用いただいていないお客様にご来店いただきたく企画いたしました。</p>
2 概要	<p>イベント名 : ふるさと野菜の直売フェア</p> <p>期 間 : ①平成 24 年 7 月 7 日 (土) 10:00~13:00 ②平成 24 年 12 月 15 日 (土) 10:00~12:00</p> <p>概 要 : ①地場産農産物販売、ローン・共済・葬儀相談会、 お楽しみ抽選会ほか各種コーナー ②地場産農産物販売、ほか各種コーナー</p>
3 成果 (効果)	<p>集客数 : ①300 人超 (ローン相談者 数名) ②260 人 ほか出店業者様への各種相談数件</p> <p>面前販売することにより、生産者（組合員）様に生産・販売意欲の向上が見られました。</p> <p>また来店のお客様にも地場産農産物として安心感をおぼえていただきました。</p>
4 今後の 予定 (課題)	<p>半期に一度、定期的で開催し、戸田市農業協同組合の定番である企画という意識を利用者に持っていただき、当組合を広く認知いただけるよう活動いたします。</p> <p>2 回の開催で集客数・直売農産物の数量把握、お客様のニーズが確認できましたので、今後さらに円滑な対応が出来るよう努力いたします。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル：信用部と営農サポートセンターとの連携      JA名：JAフルーツ山梨（山梨県）

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>当JAでは、農業後継者不足等により年々耕作放棄地が増加していることから、地域の農業生産維持向上のために農家経営支援を行い、農家生活の向上を指向するべく、平成21年4月に耕作放棄地対策を中心に取扱う「営農サポートセンター」を設置しました。</li> </ul>																					
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>営農サポートセンターでは、専門職員を配置し、(1)耕作放棄地等の防止および再生活動支援、(2)農業機械の貸出、(3)新規就農者のサポート、(4)農業経営の支援、を中心に業務に取り組んでいます。</li> <li>また、平成22年度からJAバンクでは、新規就農希望者を研修生として受け入れ独立就農に向けた指導を実施する受入農家等への研修費用の助成制度となる「JAバンク新規就農応援事業」が創設されました。</li> <li>かかる事業を受け、信用部では営農サポートセンターとの連携強化を図り、行政の就農支援制度とあわせてJAバンク新規就農者応援事業を活用しながら、研修受入農家等からの営農相談および資金面によるサポートを実施しています。</li> </ul>																					
3 成果 (効果)	<p><b>【営農サポートセンターの実績】</b></p> <table border="1" data-bbox="379 1122 1422 1417"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度実績</th> <th>24年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農地利用集積円滑化事業による利用権設定件数（農地貸借のマッチング）</td> <td>37件（517a）</td> <td>30件（500a）</td> </tr> <tr> <td>農業機械（乗用モア等）貸出事業</td> <td>422件</td> <td>464件</td> </tr> <tr> <td>耕作放棄地解消補助事業</td> <td>2件（23a）</td> <td>2件（49a）</td> </tr> <tr> <td>農作業受託事業</td> <td>68件（1,497a）</td> <td>91件（2,245a）</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【JAバンク新規就農応援事業の活用実績】</b></p> <table border="1" data-bbox="384 1514 1414 1615"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度（※）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8件 960千円</td> <td>10件 1,050千円</td> <td>14件 1,390千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>（※24年度については助成金の申請手続き中です。）</p>		23年度実績	24年度実績	農地利用集積円滑化事業による利用権設定件数（農地貸借のマッチング）	37件（517a）	30件（500a）	農業機械（乗用モア等）貸出事業	422件	464件	耕作放棄地解消補助事業	2件（23a）	2件（49a）	農作業受託事業	68件（1,497a）	91件（2,245a）	22年度	23年度	24年度（※）	8件 960千円	10件 1,050千円	14件 1,390千円
	23年度実績	24年度実績																				
農地利用集積円滑化事業による利用権設定件数（農地貸借のマッチング）	37件（517a）	30件（500a）																				
農業機械（乗用モア等）貸出事業	422件	464件																				
耕作放棄地解消補助事業	2件（23a）	2件（49a）																				
農作業受託事業	68件（1,497a）	91件（2,245a）																				
22年度	23年度	24年度（※）																				
8件 960千円	10件 1,050千円	14件 1,390千円																				
4 今後の 予定（課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政等の関係機関と連携を図るとともに、総合事業体としてJAが保有している情報・人材・ノウハウを提供しながら、引続き地域の農業の維持・発展に貢献していきたいです。</li> </ul>																					

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 担い手金融リーダーの設置 JA名 JA大井川（静岡県）

1 動機 (経緯)	当JA大井川管内においては、お茶産業が盛んであります。高齢化が急速に進んでいる中、担い手とJAとの繋がりも薄れつつあり、有数のお茶産地を守る為に担い手金融部署と農業相談員の必要性が高まり設置いたしました。
2 概要	各基幹支店ごとに、担い手金融リーダーと農業相談員を設置いたしました。大規模農家・法人等を中心に、メイン強化定期訪問を実施しており、金融並びに営農指導の両方の相談に対応しております。
3 成果 (効果)	信用部門・営農部門との連携により、担い手向け金融機能の強化が図られました。メイン強化先への定期訪問により、農業資金等のニーズを迅速に把握する事ができ、対応を行う事ができました。担い手とJAの関係強化が図られました。
4 今後の 予定 (課題)	今後も、担い手とJAの関係強化の為に定期訪問を継続します。また、中小規模農家へも訪問対象を広げていく必要があります。 本年度は、大規模なお茶の凍霜被害を受けました。訪問を重ねるうちに、運転資金の融資の話が持ち上がり、災害対策資金融資の受付を開始しております。貸付金額は、個人は最高500万円基準金利は年1.5% 但し農協の利子補給を0.75%として、地方公共団体等の利子補給を受ける場合につきましては、その相当額をさらに引き下げるものです。

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル 担い手支援と担い手優遇措置を活用した積極的JA事業の利用推進

JA名 JA勝英（岡山県）

1 動機 (経緯)	<p>JA管内において農業従事者の高齢化，農業後継者不足により地域農業の維持が難しく農地の保全管理が大きな問題となっています。また，農家の過半数が兼業農家で，特に稲作を中心とした農家においては高齢化のため機械の設備投資もままならない状況となっていることから，JAとの繋がりも薄れつつありました。</p> <p>よって，積極的に「担い手」の確保・育成，集落営農の組織化への推進に取組み，地域農業の振興と，JAと「担い手」との関係強化に努めるとともに，「担い手」の農協離れを食い止めることを目的としています。</p>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模経営を目指し，個人経営や組織経営を行う，将来の地域農業の中心となる「担い手」の方々へ出向く営農・経済渉外員（TAC）を活用した計画的な訪問活動により，「担い手」のニーズを把握します。</li> <li>・担い手支援チーム（営農，経済，信用，総務，共済）を結成し，TACからの情報をもとに関係部署が連携をとりながら，農家の要望に的確に対応すべく「担い手支援策」・「担い手優遇措置」（※）を実施しています。</li> </ul> <p>（※）「担い手支援策」・「担い手優遇措置」については，当JAへご照会ください。</p>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAとの関係が疎遠になっていた農家に対し，TAC担当者が定期的に農家訪問することにより，JAが「担い手」と位置づける農家の生の意見が把握でき，JAとしてどう対応していくべきか，どう農家に提案していけばよいかを検討できるようになりました。</li> <li>・定期的に担い手支援チームによる会議を開催することで，関係部署間で共通の課題として位置づけられるようになりました。</li> <li>・「担い手優遇措置」の実施により，JAに出荷を始めた「担い手」のJA利用拡大に繋がりを，農家自身も自分が「JAの担い手なんだ」という意識改革が図られ，特に販売物のうち米の出荷について，全く出荷の無かった大型農家からもJA出荷に繋がりました。</li> </ul>
4 今後の 予定（課題）	「担い手」と定める農家と，一般の農家との連携を図り，さらなる担い手の育成と関係強化に努める予定です。

## 対象となる担い手の要件

## (1) 個別事業対応農家の選定基準

## ア. 個別経営体

- ①水稲＋麦＋大豆（黒枝豆を含む）＋小豆（ささげを含む）＋飼料作物＋そば＋なたね（搾油用）の栽培面積 260a以上
- ②農業生産販売総額 500万円以上
- ③野菜栽培面積 25a以上 又は ハウス栽培面積 10a以上

- ④果樹栽培面積 50a以上 又は ハウス栽培面積 25a以上
- ⑤花卉栽培面積 25a以上 又は ハウス栽培面積 10a以上
- ⑥ミニライスセンター調製玄米の JA 出荷数量 200 俵以上

イ. 集団組織

- ①農業生産法人・集落営農組織(任意組織)
  - ②JA 園芸生産部会
- (2) 水田・畑作経営所得安定対策(麦・大豆)加入者
  - (3) 上記農業者が JA の事業の利用状況が良好であること。
  - (4) 上記選定基準を基本とするが, 競技により別途選定する場合もある。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル	事業間連携の取組み	JA名 JAうま (愛媛県)
1 動機 (経緯)	農業者のニーズ把握とそれに対応するための態勢構築のため、金融部門の知識の充実及び、営農部門の農業融資の意識付け、また、両部門での協力体制の構築に取り組みました。	
2 概要	地域営農指導員の定例会に金融部門からも参画し、情報の共有化や営農指導員の融資知識（制度資金の簡単な概要の知識程度）の向上を目指していきます。	
3 成果 (効果)	地域営農指導員（TAC）と金融部門が連携することにより、スピーディーな情報提供に努めることができ、結果として農業者の農業経営と生活をサポートすることが出来ました。	
4 今後の 予定(課題)	両部門の連携は必要であり、平成 25 年度も営農指導員定例会の金融部門からの出席依頼をしています。これにより、情報の共有化や連携を密にして農家が満足するような活動を行っていく予定です。	

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 担い手先への訪問基盤の強化

JA名 JA松山市 (愛媛県)

1 動機 (経緯)	近年、六次産業化が注目され始め他金融機関等による農業分野への参入が強まる中、担い手（認定農業者・農事組合法人等）との信頼関係を深めるため、昨年に引き続き営農担当者と連携を図り担い手先への積極的な訪問活動による情報収集・相談機能の強化に努めました。
2 概要	当組合では、208先の担い手農家を選定し、継続的な訪問活動による情報収集・相談機能の強化を展開しております。その中で、資金のニーズや相談に対して迅速に対応できるように、金融担当者と営農担当者が連携し、情報の共有化に努めております。
3 成果 (効果)	このような取組を行った結果、24年度は農業施設資金や制度資金、短期運転資金など28件、金額においては8,100万円の新規実行を行うことが出来ました。
4 今後の 予定(課題)	今後も、更なる担い手（認定農業者・農事組合法人等）との信頼関係を深めるために、同行訪問・情報交換など営農部門と金融部門の連携を引き続き強化し、資金ニーズに対して迅速に対応できるよう努めていきたいと思っております。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 事業間連携による農業者ニーズの把握

JA名 JAそお鹿児島（鹿児島県）

1 動機 (経緯)	農業資金PRにおいては機関情報誌等を活用した広報に止まっていました。更にCS調査における信用担当者の訪問頻度が全くない状況から出向く体制の確立が必要となっていました。
2 概要	金融部門担当と指導部門担当が農業者の資金ニーズの把握と共有を図り、農家の事業拡大や基盤確立へ向けた資金需要に対応します。
3 成果 (効果)	情報の交換により指導担当者の商品知識が高まり、農家への情報提供や相談機能が発揮され、資金対応に繋がっています。
4 今後の 予定 (課題)	管内担い手農家の全戸訪問と定期的巡回を目指します。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 農家経営再建

 JA名 JAあきた白神（秋田県）

1 動機 (経緯)	農家経営の改善につなげるため、組合員の利息負担を軽減し、農家との関係強化を図りました。
2 概要	種苗交換会の地元開催に合わせ農業機械関連資金の低金利キャンペーンを実施しました。種苗交換会は県内の多数の農業者が集うイベントで、組合員へ取組みをPRし、多数の相談対応を行いました。
3 成果 (効果)	経営改善が進むことで、JAとの信頼関係が深まった結果、農業資金取扱が増加基調になるとともに営農経済部門との取引拡大にもつながっています。
4 今後の 予定 (課題)	負債整理資金の金利を見直し、さらに農家経営再建を促進します。TACシステムを活用し、部門間の情報共有を図っていきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 経営不振農家支援 JA名 JA秋田みなみ（秋田県）

1 動機 (経緯)	平成 21 年度の秋田県農業再生委員会（3 年間）の発足に伴い，経営不振農家支援に取り組んでいます。経営不振農家を再生させることで，高齢化が進む管内の農地の受け手としても位置づけています。
2 概要	農業経営負担軽減支援資金をベースに，経営不振農家の負債を借り替えにより支援しています。経営支援の中で，TACを活用し，新規作物導入支援等を営農部門と連携しつつ提案し，販売強化にも取り組んでおります。
3 成果 (効果)	平成 21 年度以降，農業再生委員会の案件を含め 10 名について融資実行しています。TACの認知度も高まり，部門間連携による農家支援の取組みが増加してきております。
4 今後の 予定（課題）	継続的に経営不振の農家支援対策の一つとして位置づけ，平成 25 年度も 5 件の需要見込みであることを秋田県に要望しています。今後も TACを中心にスピード感を持って，農家支援のため部門横断的に取り組んでいきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

## 農家経営改善対策委員会の活動について

JA名 JA大潟村 (秋田県)

1 動機 (経緯)	15 ha を経営基盤とした大潟村であっても近年の農業情勢を見ると農業所得の減少は著しく、こうした現状に耐えられない農家が一部散見されるようになっております。 農家経営の弱体化は、JA経営にも影響を及ぼすことから、こうした農家の経営を営農技術、経営指導の両面からサポートし、指導方針等については、農家経営改善対策委員会で協議するとともに、対象農家の経営安定に寄与することを目的としています。
2 概要	農家経営改善対策委員会の構成員は、組合長、専務、常務、総務課長、金融課長、営農支援課長、経営課長（事務局長）、で、支援対象農家の選定、指導方針等を協議した後、指導方針を基に栽培技術の指導を営農支援課が現場にて行っており、営農作付及び経営指導を経営課が融資を含めてサポートしています。（農家支援対策チーム）
3 成果 (効果)	貸越口座等の固定化、限度額超過の減少には一定の効果が得られているとともに、債務者区分の改善、安定的な農家経営が図られてきております。
4 今後の 予定（課題）	農業政策がめまぐるしく変化する中で、個々の農家に対し経営計画の作成には苦慮しており、いち早い情報の収集が必要となっています。 また、設備資金のタイミングと経営改善資金の融資の見極めが今後の課題になると考えます。

## 地域密着型金融の取組事例

タイトル 営農再生プラン策定により経営改善を図り、農業経営の継続を希望する農家  
に対する長期・低金利の資金対応

JA名 JA甘楽富岡（群馬県）

1 動機 (経緯)	飼料・肥料・燃料等の値上がりの一方で、農畜産物の価格低迷により営農負債が増加し、農家経営は危機的状況が続いています。 このような中、営農再生プラン策定により経営改善を図り、農業経営の継続を希望する農家に対し長期・低金利の資金として「農業経営支援特別資金」を制定し、専業農家へ低金利の資金を提供しました。
2 概要	(目的) 営農再生プランによる農業経営の継続を希望する農家に対し、長期・低金利の資金を融通すること。 (貸出の対象者) 次の要件に該当する者。 (1) 緊急営農対策資金の貸出先で営農再生プラン適用農家。 (2) 平均払勘定廃止に伴う債務整理対象農家で営農再生プラン適用農家。 (3) 営農再生プラン適用農家。 (貸出限度額) 緊急営農対策資金、平均払勘定、購買未収金の残高を限度額とし、営農再生プランに基づいて算出した融資実行可能額。 (貸出期間) 15年以内。 (貸付形式) 証書貸付。 (償還方法) 次の月賦・年賦償還のいずれかとし、利息については月払いのみ。 (1) 元金均等償還（最終回しわ寄せも可） (2) 元利均等償還（最終回しわ寄せも可） (3) 上記（1）（2）の最終回しわ寄せ額は、担保処分等により償還。 (貸出利率) 変動金利で一般資金利率。但し営農再生プラン適用期間中は、特別金利で対応。 (担保及び保証) 必要に応じて、物的担保（譲渡担保を含む）及び連帯保証人を依頼。 (その他) 購買未収金は農協購買品売買基本契約書を締結し極度額設定を行う。
3 成果 (効果)	1. 購買未収金の大口取引先に対して証書化を図り、特に畜産農家で大家畜・養豚経営の償還が困難な借入金を長期・低利の資金に一括で借り換えることにより経営の維持と安定を図りました。 2. 畜産経営維持緊急支援資金及び大家畜活性化資金（国の制度資金）に振り替えることにより組合員農家の返済元利金負担軽減等の経営支援につながりました。 3. 農業経営支援特別資金は平成25年3月現在で案件数13件、金額で147百万円の実績となりました。
4 今後の 予定（課題）	1. 資金の円滑な償還促進に努めます。 2. 組合員農家の経営管理に努めます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 相談業務への取組

JA名 JAあかし（兵庫県）

1 動機 (経緯)	正組合員の中で相続税対策や遺言書作成についての相談業務についてのニーズが高まっており、希望者を募って相談会を数年前より実施する様になりました。
2 概要	JAバンク相談部を招いて定例的な相談会を2か月ごとに開催。 相談会前には資産状況の変化などについて事前に聞き取りを行なっています。 定例相談だけでなく、新規相談には個別に対応しており、今後も相談件数は増えていくものと思われます。
3 成果 (効果)	JAバンク兵庫が農中信託銀行の遺言信託代理店として遺言信託に取り組んでおり、当JAの組合員については7件成約しています。 また、個別相談において過去に作成した遺言書の内容を見直したいという相談を受けお手伝いをしました。 なお、遺言者は健康上の理由から外出が難しいため公証人がご自宅まで出張しての再作成となりました。 遺言者の意向を正確に反映した文面の作成や公証人の出張までの手続きは組合員単独では難しく、当JAとJAバンク相談部でサポートすることで時間はかかりましたが満足して頂ける結果を得ることが出来ました。
4 今後の 予定 (課題)	当地域では、農業の傍ら、不動産賃貸事業を経営する組合員もおられ、賃貸事業の法人化を検討する方も増えてきています。 専門の税理士と連携した法人設立支援等、都市部のJAとして、税務、相続関係の相談業務を今後も強化し、組合員との絆を強くしてゆく必要があると考えています。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 地元関係機関と連携したコンサルティング 県名 J Aバンク島根（島根県）

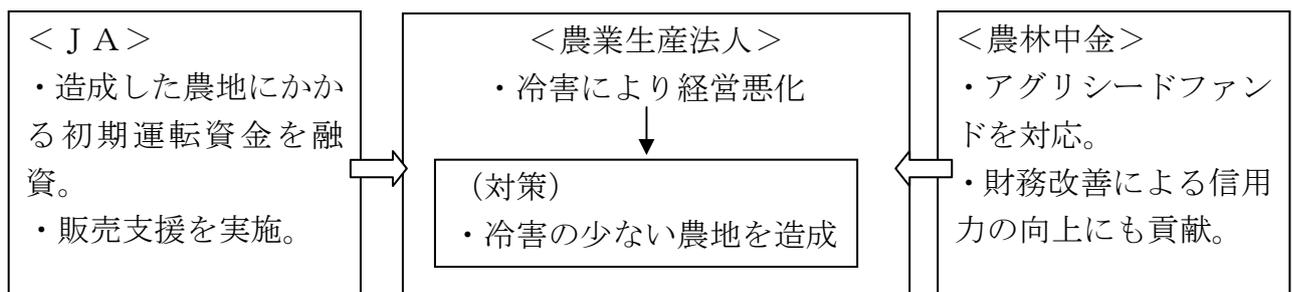
1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既往借入の償還が困難である貸付先に対し、これまで条件変更を行ってきた。数回の条件変更を行ったことから、1 回毎の償還負担が重くなっており、経営を存続させるためには抜本的な対応が必要であり、借換を検討することとした。</li> <li>・ J A 系統としても支援したい先であったことから、この検討にあたっては、行政を含め、経営改善の方向性を探った。</li> </ul>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営改善にあたっては、第 1 段階として、経営を安定させることを趣旨に、「新規取引先獲得」（商談会への参加）、「新商品開発」等を行い、一定程度の成果を確認したうえで、J A および公庫が金融支援を行った。</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 借換と併せて、機械修繕資金も対応し、製造過程でのロス削減を図ったことから、安定的な農業経営が図られてきている。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も行政と連携しながら、経営を注視し、サポートしていくことが必要と考える。</li> </ul>

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル コンサルティング機能発揮による農業者の経営サポート

JA名 JAかみましき（熊本県）

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当JAでは農業メインバンクの取組みの一環として、農業法人への対応を強化しています。</li> <li>・そうした中、生産物をJA出荷している農業生産法人から冷害による業績悪化に伴う経営改善の相談があったものです。</li> </ul>
2 概要	<p><b>【JA】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業績悪化の主要因である冷害対策として、冷害の少ない農地の造成および苗代等の資金をJA融資で対応しました。</li> <li>・JA直売所や県経済連による販売支援を実施しました。</li> </ul> <p><b>【農林中金】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに造成する冷害の少ない農地への肥料代等の運転資金をアグリシードファンドにて対応しました。当社の信用力の向上にも寄与しています。</li> </ul> <p><b>【県】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標高の低い土地は県のサポートにより低額での貸貸を実現しました。</li> </ul> <p>⇒JA・農林中金が連携のうえ、抜本的な経営改善対策を生産者と協議・経営改善計画を策定し、資金対応を実施しました。</p>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社はJA融資・アグリシードファンドによる資金支援を受けながら、抜本的な経営改善策に取り組んでいることが他行からも評価され、今後の経営改善の見通しが立ちました。</li> <li>・後継者の就農意欲を維持させることができ、貴重な担い手の経営存続を図ることができました。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造成した農地の作物は順調に成長していますが、収穫までは数年かかる見込であり、生育状況を確認していく必要があります。</li> <li>・栽培指導、経営指導等を行い、計画通りに経営改善が実現できるようにサポートしてまいります。</li> </ul>



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 経営不振先に対するコンサルティング機能の発揮

JA名 JAさつま日置（鹿児島県）

1 動機 (経緯)	飼料費の値上がりや畜産物の価格低迷により農家負債が増加し、経営状況が思わしくない農家が増加しています。このような中、経営の継続を希望する農家に対し経営指導を行い、経営の安定化を図るために取り組んでいます。
2 概要	畜産特別資金の借入先について、定期的な検討会を開催し、経営改善計画の進捗状況確認を行い、計画達成に向けた課題点の抽出を行っています。抽出された課題に対するソリューションを提示し、経営者の意識改革を図るとともに、経営の向上を目指すものです。
3 成果 (効果)	経営改善計画に基づく指導により、一部の農家においては農家負債も減少し、一定の効果が見受けられています。
4 今後の 予定 (課題)	今後も継続した取り組みを実施し、経営改善計画の達成を図ることにより、農家経営の安定化を図ってまいります。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 負債農家に対する個別カウンセリング及び経営改善指導業務

JA名 JA肝付吾平町（鹿児島県）

1 動機 (経緯)	負債整理資金等を融資したものの、経営が好転しない担い手農家がいることから、経営不振農家に対して技術指導と経営指導を実施することで経営の向上を目指すために取組みを開始しました。
2 概要	毎月開催する担い手プロジェクト会議において、農家とのカウンセリング結果等の活動報告と協議検討を行なっています。
3 成果 (効果)	購買未収金等の負債額が減少する傾向にはありますが、経営が好転するまでには長期間を要しています。
4 今後の 予定 (課題)	経営改善資金計画の見直し計画策定と、継続的個別指導の実施で奥深くまで入り込み経費等の無駄等の課題を抽出し抜本的な経営指導を実施します。 農家の意識改革を行ない、経営実態を把握させ負債に対する責任感、危機意識を高めます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 東北復興商談会の開催

JA名 JAバンク宮城（宮城県）

1 動機 (経緯)	<p>東日本大震災から 2 年が経過した今日においても、農業、水産業ともに復旧・復興の途上であり、震災復興の足取りをより確かなものにするため、販売面の支援を図ることが重要だと認識し、JA 全農県本部等と連携し、系統主催の復興商談会を開催しました。</p> <p>本復興商談会は、東北地区の地域商談会としては、昨年度実施した「JA グループ宮城復興商談会」に引き続き 2 回目の開催となりました。</p>
2 概要	<p>○開催日・場所 平成 25 年 3 月 14 日（木） 宮城県仙台市「江陽グランドホテル」</p> <p>○参加団体 (セラー団体) 東北 6 県の JA, 農業法人, JF, 水産加工会社等, 計 51 団体 (バイヤー企業) 首都圏・仙台圏の流通・小売業, 食品製造業, ホテル, 飲食業等, 計 44 団体</p> <p>○商談形式 効率的な商談, より多くの商談成立を目指し, セラー団体およびバイヤー団体から事前に商談ニーズのヒアリングを実施しました。1 商談 30 分として, 1 セラー団体あたり最大 7 商談を設定しました。</p>
3 成果 (効果)	<p>○商談実績 商談件数（合計）：250 件 うち商談案件：12 件 商談継続案件：203 件 ※平成 25 年 3 月末時点</p> <p>参加したセラー団体からは、「バイヤー企業から商品へのアドバイス等の逆提案をいただいた」、「今後成約しそうな案件もあり、販路拡大につながることを期待できる」等の意見が寄せられ、ご満足していただけたと認識しています。</p>
4 今後の 予定（課題）	<p>引き続き、被災地域の JA グループが一体となって、地場産品の販路開拓・拡大、6 次産業化に取組み、東北地方の農林水産業はじめ地域産業の一日も早い復興につなげていきたいと考えています。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 6次産業化への取組み JA名 JAたむら (福島県)

1 動機 (経緯)	当管内は一部東京電力第一原発から20キロ圏内に位置し、未だに農産物等への風評被害から脱しきれない状況であります。そのような中、平成23年11月に発足いたしました6次化実践塾のその後の活動について報告いたします。
2 概要	平成24年度は、福島大学の支援を得て地元の特産品であるピーマンとトマトを利用した商品化を模索し、マーケティングの研究を行ないました。 また、長野県(おやき)や東京において開催された全国の6次化商品の視察研修を行ないました。
3 成果 (効果)	平成24年度は、地元の特産品であるピーマンとトマトを利用して、実際に商品の開発を行いました。具体的にはピーマンの粉末を練りこんだ生地で作るピザと、トマトの粉末を練りこんだうどんの試作品を、JAまつりにおいて来場者に試食いただき好評を得ました。
4 今後の 予定(課題)	平成25年度は更に改良を図り、JA直売所(ふあせるたむら)において販売する予定となっています。 今後、当初の目的である地元の「農・商・工のコアコンピタンスの結集」と「地域の活性化」を図り、必要であれば、新たな資金ニーズへの対応へとつなげてまいります。

# 6次化実践塾 商品開発・販売実践

**受講生募集** 福島大学と連携し、田村地域の資源を活用しながら、「たむらブランド」、「6次化商品」を生み出すことを目的としたセミナーを開催し、6次化の必要性・経営的考え方を学び、試作品づくり、仲間作りの支援を行って参ります。  
**受講料無料**

**日時** 平成24年 5月24日(木)～ 10月11日(木) (全10回) **場所** 船引公民館 **定員** 30名

**対象** 田村地域において活動する「たむらブランド」、「6次化商品」を作り開発・実践する意欲のある方 ※兼職は問いません。

**応募要項**

**応募期間** 平成24年 5月8日(火)～5月18日(金)

**募集要項**

- 対象** 田村地域において活動する「たむらブランド」、「6次化商品」を作り開発・実践する意欲のある方に対するセミナーの開催。
- 応募条件** ■18歳以上の勤務・自営されている方で、E-mail(携帯可)の送受信により連絡が可能であること。  
■原則として、全日程の受講が可能の方。
- 受講料** 受講料は無料です。
- 申し込みの流れ** 応募用紙に必要事項を記入  
応募締切 5月18日(金)  
入塾式 5月24日(木)
- 応募方法** 本チラシまたはHPよりダウンロードした「平成24年度 6次化実践塾応募用紙」に必要事項を記入の上、平成24年5月18日(金)までFAXまたはE-mailにて下記までお送りください。  
JAたむら 企画課 〒963-4396 福島県田村市船引町船引字南町通160番地  
TEL:0247-82-6162 FAX:0247-82-4464 mail:kikaku@ja-tamura.or.jp

JAたむら 企画課  
〒963-4396 福島県田村市船引町船引字南町通160番地  
TEL:0247-82-6162 FAX:0247-82-4464  
mail:kikaku@ja-tamura.or.jp

応募用紙は裏面にございます。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 北陸商談会の開催 JA名 JAバンク富山（富山県）

1 動機 (経緯)	JA・農業生産者等の販売力強化ニーズや、地域の農産物・加工品等のブランド強化によるJA・農業生産者等の満足度向上を図るため、北陸3県のJA・農業生産者等を対象として商談会を開催し、農産物・加工品等の商談や情報交換の場を提供するなどビジネスマッチングの支援に取り組みました。
2 概要	○タイトル 「JAグループ・JFグループ北陸商談会」 ○開催日・場所 平成24年12月6日（木） 石川県金沢市 ○参加団体 売り手側は、主に北陸3県（富山・石川・福井）の農産物・海産物およびその加工品を取り扱うJA・経済連・全農（子会社含む）、農業生産者、農業法人、JF（漁協）等、計36団体の皆様にご参加いただきました。買い手側は、地元及び首都圏・東海・関西地区のスーパー、食品加工、ホテル、食品卸等、計32団体の皆様にご参加いただきました。 ○商談形式 売り手側と買い手側に対して、事前に商談の意向や関心のある出品物を確認させていただき、双方のニーズが合致すれば当日に具体的な商談を行う「事前マッチング方式」により実施いたしました。 ○その他 商談会に合わせ、販路拡大をテーマとしたセミナーを実施し、多数のご参加をいただきました。
3 成果 (効果)	本商談会は、JF（漁協）の方にもご参加いただくなど系統組織らしい商談会となったほか、生産現場に近い、地方開催であることから、買い手の皆様には北陸の農林水産物の再発見を、売り手の皆様には北陸からの食材の提案を行うという形で、より深い商談を行っていただくことができました。また、行政・系統関係者の皆様にも視察のため多数ご来場いただきました。
4 今後の 予定（課題）	JA・農業生産者等の方々のニーズを踏まえ、平成25年度も、より一層参加者の満足度向上を目指した商談会を企画する予定です。 こうした取組みをはじめとして、引き続きJA・農業生産者等の農商工連携の取組みを支援してまいります。



## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル なら産彩 拡大推進事業マッチング商談会

 JA名 JAならけん(奈良県)

1 動機 (経緯)	<p>JAならけんでは、地域農業のメインバンクとして地域農業の担い手である農業法人を特にメイン強化先として訪問活動を実施し、各種経営ニーズに積極的に対応しているところです。</p> <p>今回、県産農産物等の更なる流通促進を目指して、奈良県として初めて開催される県産農産物等を対象とした商談会に参画しました。</p> <p>商談会には融資部署だけでなく、事業間連携の取り組みの中で経済事業からセラーとして参加し、大和野菜の「大和丸なす」をPRいたしました。</p>
2 概要	<p>○日時 平成25年3月5日(火) 9:15～17:00</p> <p>○場所 ホテル モントレ ラ・スール大阪 大阪府中央区城見</p> <p>○プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9:15 受付開始</li> <li>・ 10:00 バイヤー向け説明会</li> <li>・ 10:15 商品品評会</li> <li>・ 11:00 商談会</li> <li>・ 13:00 休憩</li> <li>・ 14:00 商談会・名刺交換会</li> </ul> <p>○参加団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セラー JAならけん他奈良県内を中心に計20団体</li> <li>・バイヤー 関西の百貨店、スーパー、ホテル等計19団体</li> </ul>
3 成果 (効果)	<p>奈良県の特産物である柿や大和茶、大和野菜はもとより、伝統農産物を加工したこだわりの商品をバイヤーの皆様に知っていただきました。</p>
4 今後の 予定 (課題)	<p>今後も引き続き、農業法人の6次産業化への支援を行いつつ、共に奈良の農業活性化に貢献できるよう取り組んでまいります。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル ビジネスマッチングの取組み JA名 愛媛県信連（愛媛県）

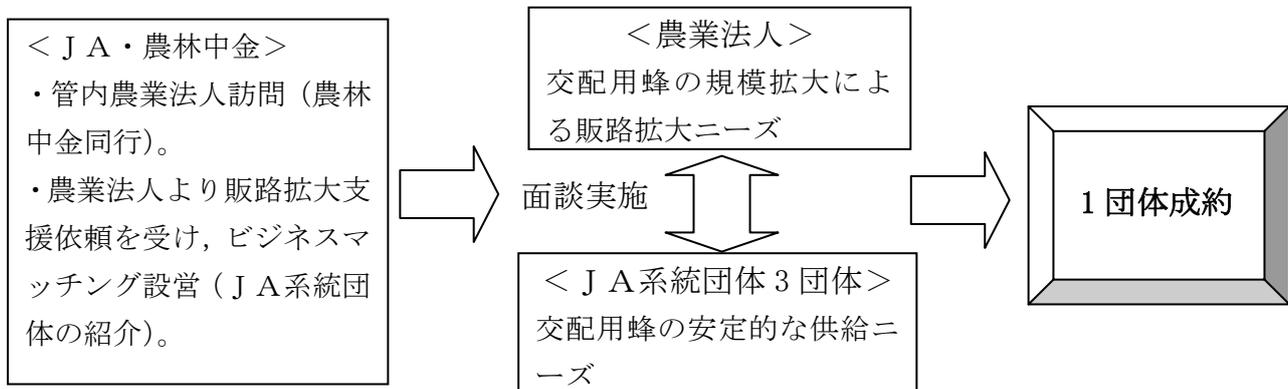
1 動機 (経緯)	<p>農商工連携事業としての商談会は、近年様々な業態で開催されております。JAバンクとしても九州や北陸地区など各地で開催されており、四国においては高知県が先行して開催しました。</p> <p>このような状況の中、愛媛県としても開催する意義があると考え、JAバンクえひめ(JA・信連)として開催することといたしました。</p>
2 概要	<p>平成 25 年 1 月 23 日、「えひめの恵み 食の商談会」と銘打ち、県内初の商談会を開催し、試食・試飲を中心とした見本市形態にて実施しました。</p> <p>地産地消をテーマに「安全で安心な えひめの恵みを地域の皆様へ」をコンセプトに新鮮でおいしい農畜産物や加工品など、JAならではの特産品を愛媛県全域から持ち寄り、多くの方々にご参加いただきました。</p>
3 成果 (効果)	<p>&lt;動員数&gt;</p> <p>来場者（バイヤー：約 370 名）、出展団体（セラー：約 200 名）、その他関係者含め総勢 700 名を超える参加がありました。</p> <p>なお、成約状況は以下のとおり（平成 25 年 4 月末現在）</p> <p>成約件数：15 件（うち JA グループ 5 件）</p> <p>商談中件数：32 件（うち JA グループ 8 件）</p>
4 今後の 予定（課題）	<p>平成 24 年度は、地産地消をコンセプトに実施しましたが、今年度は地産外商をコンセプトに四国 4 県の JAバンクが合同で平成 26 年 1 月 22 日、東京交通会館にて「JAバンク四国商談会」を開催する予定としております。</p> <p>商談方式は、事前予約商談方式及び当日自由商談により開催し、四国の農水産品等の販路拡大の機会の提供及び 6 次産業化の促進を図ることとしております。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル ビジネスマッチングを通じた生産者と関係業者を繋げる取組み

JA名 JAやつしろ（熊本県）

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当JAでは、農業メインバンク機能強化の一環として、農林中金とともに管内農業法人訪問を定期的に行い、資金需要・販路拡大等ニーズ把握に努めています。</li> <li>・そのような訪問活動により、養蜂業を営む農業法人が、交配用蜂の販路拡大のため他県（3 県）のJA系統団体を紹介してほしいというニーズを捕捉することができました。</li> </ul>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の高齢化が進む中、農家の労力軽減および効率的な受粉が可能となることによる栽培面積の拡大促進等、交配用蜂の果たす役割は大きく、県内のみならず交配用蜂の需要が見込まれる他県（3 県）への販路拡大支援依頼を当社より受けました。</li> <li>・農林中金を通じてJA系統団体（3 県）へ面談にかかる調整を行い了承されたことから、当社とJA系統団体（3 県）による面談が実現しました。</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談を行ったJA系統団体（3 県）のうち、1 団体成約、1 団体契約締結手続中、その他 1 団体は将来的に成約に向けて前向きに検討するとの回答を得たことから、当社の要望に応える結果となりました。</li> <li>・ビジネスマッチングを実現するとともに、当社の経営基盤強化に資する取組みができました。</li> </ul>
4 今後の 予定（課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社における規模拡大に伴う販路拡大が実現したことにより、設備投資による資金需要等発生する可能性があることから、継続した訪問活動を行うことにより、ニーズ把握に引続き努めてまいります。</li> </ul>



## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル 行政・系統が一体となった空知ワイン振興への取組み

JA名 JAいわみざわ (北海道)

1 動機 (経緯)	岩見沢市周辺では、ワイン用ブドウ栽培および醸造に係る歴史は比較的浅いですが、新規参入が増加しています。JAは地区の農業振興の立場から、地場のワインを中核とした地域の活性化に向けて、行政及び系統金融機関も含め一体となり資金面を含めた新規就農者支援等を行っています。
2 概要	(1) JAの醸造用ブドウ生産農家に対する支援内容 ①経営計画策定に係る支援、系統資金供給に係る窓口 ②資金借入にかかる必要手続等の実務支援 ③法人設立にかかる支援や相談 ④新規就農時の研修実施窓口 ⑤肥料・農薬等の農業関係資材の供給 ⑥Aコープ、インターネットストアを経由した岩見沢ワインの販売 (2) 地元行政の醸造用ブドウ生産農家に対する支援内容 ・空知総合振興局 ①ぶどう栽培、ワイン栽培、販売拡大等に関する総合的な支援窓口 ②補助事業（農業主導型6次産業化整備事業等）の相談 ・岩見沢市 ①ワイナリー建設地の斡旋、施設購入にあたっての物件紹介等 ②新規就農に係る各種手続の支援
3 成果 (効果)	(1) 著名な外国人醸造家の新規就農、ワイナリー建設に際し、初期段階より各支援体制により相談・支援を継続し、資金対応に至っています。 ・信連、日本公庫によるワイナリー設備資金の協調融資 ・農林中金による運転資金対応、アグリシードファンドの対応 (2) ぶどう栽培の新規参入増加による中山間地域農地の有効活用 (3) 空知ワインの知名度向上による地域活性化
4 今後の 予定 (課題)	・支援済みのワイナリーに対する継続的なフォロー、取引の深耕。 ・ブドウ栽培農家に対する営農面、金融面の相談ノウハウの蓄積。 ・地区の新規就農ワイン農家に対する支援。 ・継続した行政との連携による6次産業化等への発展。

&lt;参考&gt;当地区のブドウ生産、ワイン醸造に係る現状

- ・ワイナリー : 3軒 (山崎、宝水、10R)
- ・ブドウ生産者: 加工用 17軒 (毛陽、三笠、栗沢地区)  
生食用 5軒 (毛陽地区)

※JAいわみざわの新規就農者数 (H19年度以降) 8軒の内、4軒がワイン (ぶどう) 関係

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 地域との連携による新規就農支援      J A 名 J A 伊豆の国 (静岡県)

1 動機 (経緯)	地域農業の担い手の減少と高齢化により、地域農業が年々疲弊していく中で、これからの地域農業を支える担い手の育成・支援が、最も重要な役割として位置づけられます。生産者、行政、J A が一体となって、地域農業の担い手となる人材の育成と支援を図るべく取り組んでおります。
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J A 伊豆の国管内における、高い技術と指導力を持った熟練農業者の下で、1 年間から 2 年間の研修を行っていただき、農業経営者として経営理念の確立と栽培の基礎知識を習得していただきます。</li> <li>・ J A として次のとおり支援を行います。 就農計画の作成、制度資金借入手続、栽培農地の斡旋、栽培施設・設備取得、巡回指導、各関係機関との連携・調整等</li> <li>・ J A 伊豆の国ニューファーマー地域連絡会を設立し、研修受入農家、行政、J A とが連携し、多方面から新規就農者を支援。毎年一回、意見交換会を開催し、就農後の経験談や日々の問題を話し合い、一緒に解決策を探り、地域全体で情報を共有する場となっております。</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 24 年度は 8 名の研修生を受け入れ、うち 5 名は既に就農しております。3 名については、今後随時就農予定となっております。その結果、今までに新規で就農した者は 48 名となり、全国でも有数な育成先進地となっております。</li> <li>・ J A 伊豆の国果菜委員会ミニトマト部会は、地域と連携し新規就農者の育成・支援をし、その栽培技術と生産力が高く評価され、第 42 回日本農業賞・大賞を受賞しました。</li> <li>・ 新規就農者の増加とともに、作物の収穫作業などを担う人材が必要になり、地域雇用の新たな創出にも貢献しているほか、新規就農者とその家族の増加は地域の人口増加にも寄与しております。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	今後も継続した取り組みを進め、地域農業の発展と地域全体の活性化に貢献していくよう、J A の役割と責任を認識し遂行してまいります。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 新規就農者・後継者向け教育施設での講師対応

JA名 JA鹿児島県信連（鹿児島）

1 動機 (経緯)	これからの鹿児島県の農業を担っていく農業後継者に対し、農業技術だけではなく「企業経営者」として農業に従事してもらいたいという思いから、信連より新規就農者や後継者向けの教育施設（鹿児島県立農業大学校）に申し入れ、実現したものです。（平成 18 年度より継続中）
2 概要	<p> <b>【年間講義数】</b> 平成 18 年度 6 時限，平成 19 年度 12 時限，平成 20 年度 48 時限                      平成 21 年度 48 時限，平成 22 年度 12 時限，平成 23 年度 12 時限                      平成 24 年度 12 時限                 </p> <p> <b>【受講者数】</b> 2 年生 100 名程度（全学部）                 </p> <p> <b>【講義内容】</b> 農業情勢について                      農業経営の経営分析について                      事例研究                 </p>
3 成果 (効果)	<p>                     新規就農者・後継者等が経営感覚を身につける動機づけになっているものと考えます。                 </p> <p>                     今後も、本件取組みを継続することにより、県内農業者の意識の底上げにつながる取組みと位置付けています。                 </p>
4 今後の 予定（課題）	今後も継続した取組みを進める方針です。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 新規就農者ローンの創設

JA名 JAおきなわ（沖縄県）

1 動機 (経緯)	これまで、新規就農者に対する融資は農業制度資金による対応を行ってききましたが、対象者や資金使途が限定されているため、新規就農者の希望に十分応えられないケースも散見されておりました。また、資料作成や審査等に時間がかかることから、迅速に対応できる資金が求められていたため、「新規就農者ローン」を創設いたしました。
2 概要	資金概要は以下のとおりです。 <b>【商 品 名】</b> JA新規就農者ローン <b>【資 金 使 途】</b> 就農に必要な運転資金 <b>【貸付限度額】</b> 100万円以内 <b>【貸 出 期 間】</b> 7年以内（うち据置期間24ヶ月以内） <b>【金 利】</b> JA所定利率（固定金利） <b>【担保・保証】</b> 原則、担保・保証人は不要とし、当JAが指定する保証機関（沖縄県農業信用基金協会）の保証をご利用いただきます。
3 成果 (効果)	平成24年7月20日より取り扱いを開始し、平成25年3月末時点で1件700千円の貸出実績となっております。
4 今後の 予定（課題）	農家の方からの資金相談に応えられるよう、制度資金からJA独自の資金まで、さまざまな資金メニューの中から、最適な資金を提供していきます。 取扱開始からまだ1年経過しておらず、農家の方へ周知されていない部分もありますので、営農指導員等と連携してJAの農業資金をPRしていきたいと考えております。

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル 第1回 JAバンク岩手農業法人経営者セミナー

JA名 JAバンク岩手（岩手県）

1 動機 (経緯)	岩手県農業の担い手として活躍している農業法人の一層の発展に資するため、“これからの農業経営をどう展開するか”を考えるべく、農業経営コンサルタントおよび先進法人の経営者を講師として迎え、セミナーを開催しました。
2 概要	主催：JA岩手県信連 共催：JAバンク岩手担い手金融リーダー協議会 後援：JA岩手県中央会、JA全農いわて  セミナー 第1部 『農業』から『農業経営』への転換 アグリビジネス・ソリューションズ株式会社 代表取締役社長 森 剛一氏 第2部 「中山間地域発 複合経営から6次産業化への発展 ～自立した農業経営を目指して～」 株式会社 永井農場 代表取締役社長 永井 進氏
3 成果 (効果)	○参加者 農業経営者：118名 関係団体（JA、県信連、県中央会、全農）：95名 ○アンケートでは、約9割の参加者から「とても良かった」「今後も参加したい」といった回答が得られました。
4 今後の 予定（課題）	岩手県の基幹産業である農業に関わる「農業専門金融機関」として、岩手県農業の担い手として活躍されている農業法人の一層の発展と、JAと農業法人との関係をより密接なものとするため、農業経営者の方々を対象として農業再生等をテーマにセミナーを継続開催していく予定です。

## &lt;セミナー風景&gt;



## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 農業法人経営セミナー開催      JA名 JAバンク宮城（宮城県）

1 動機 (経緯)	宮城県の農業法人に対し、震災からの復興、一層の経営発展に寄与する情報および参加者同士のネットワークづくりの場を提供することを目的に、宮城県農業法人協会と共催で「農業法人現地視察および経営セミナー」を開催しました。農林中央金庫仙台支店が本セミナーを開催するのは初めてとなりました。
2 概要	○名称 「平成 24 年度農業法人現地視察及び経営セミナー」 ○開催日 平成 25 年 3 月 18 日（月） ○主催 宮城県農業法人協会，農林中央金庫仙台支店 ○参加者 農業法人および関係団体計 38 団体 ○内容 第一部「農業法人現地視察」 事業規模が県内有数の農業法人の元に足を運び、経営者より生産面や販売面での先進的な取組みについてお話をうかがいました。 第二部「経営セミナー」 「6 次化の実践と今後の展望」，「農産物流通の新潮流」というテーマで、それぞれ講師を招聘し、講演を行いました。 第三部「交流会」 普段あまり話す機会がない参加者同士の意見交換の場を設け、親睦を深めました。
3 成果 (効果)	参加した農業法人からは、「6 次産業化等の販売戦略について、今までより考え方が深まり、今後の経営に役立った」との声が聞かれ、参加者にご満足していただけたと認識しております。 また、普段話す機会の無かった参加者同士で、農業経営に関する意見交換を行ったことで、お互いに良い刺激となり非常に有意義なものになりました。
4 今後の 予定（課題）	引き続き、農業法人協会と連携し、農業法人への復興支援および経営サポートを行っていきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル JAバンク山形県農業経営セミナー JA名 JAバンク山形県 (山形県)

1 動機 (経緯)	○ H22 年度のセミナー初開催以降, これまで金庫山形支店主催で金庫のメイン強化先を対象にセミナーを開催してきたなか, 本件セミナーは, 初めて JAバンク山形県主催として開催したものです。
2 概要	○主 催 JAバンク山形県 ○後 援 山形県 ○内 容 ・「県内農業情勢と産出額拡大に向けた農業政策の展開」 山形県農林水産部農政企画課長 佐藤 宏昭 氏 ・「逆境を切り拓く経営」～壁を破る発想法～ 元・日本 GM(株)代表取締役社長 佐藤 満 氏 ・「JAバンクにおける農業金融取組について」 農林中央金庫山形支店職員
3 成果 (効果)	○ JAのメイン強化先やJA役職員の出席により, 過去の出席者数を上回る 120 名の出席が得られました。JA役職員からメイン強化先への適切な声かけが行われており, セミナー開催を通じた系統金融のファン作りやメイン強化先との関係強化等セミナーの開催意義が正しく伝わっていたものと考えられます。 ○ 農業産出額向上や災害対策資金等, 県との連携機会が増加するなか, 講師派遣依頼や後援を通じて県との関係強化につながりました。 ○ 日本農業新聞による新聞報道を通じて, 本件セミナー開催にかかる情報発信が行われました。
4 今後の 予定 (課題)	○ 次回以降, セミナー後の交流会の開催や山形市以外での開催, JA青年部との共催による若手農業者の出席促進, 全農による農機情報の提供等に展開していく予定です。



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 第6回農業法人経営者セミナー JA名 JAバンク新潟県信連（新潟県）

1 動機 (経緯)	新潟県農業の担い手として活躍している農業法人等、大規模農業者の一層の発展に向けた経営安定化支援策の一環と、参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、平成19年度から「農業法人経営者セミナー」を開催しています。  第6回となる平成24年度は、社団法人JC総研および県外の農業法人を講師に招き、多くの法人組織、関係団体の皆さまからご参加頂きました。
2 概要	主催者 : JAバンク新潟県信連 講演内容 第一部「大規模水稲経営体の展開と地域農業資源の管理 ー北陸水田地帯の大規模経営体の取組からー」 講師：社団法人JC総研 研究員 大仲克俊 様 第二部「農地集積に対する経営課題と今後の展開について」 講師：農事組合法人サカタニ農産 代表理事 奥村 一則 様
3 成果 (効果)	○参加団体数 法人組織 61組織 (93名) 18JA (67名) その他関係機関 (18名) 計178名  ○アンケートでは、9割の参加者から「とても良かった」「今後も参加したい」といった回答が得られました。他にも「実体験に基づいた話で、共感するところが良かった」「自分が考えている課題とマッチしていた。今後のことを考える必要性をもっと感じた。」といった回答をいただきました。
4 今後の 予定 (課題)	農業法人への対応を担い手金融の重要な取り組みの一つと位置づけ、法人経営の安定に寄与するテーマ・内容により、本セミナーを継続開催していく予定です。

## 当日会場の様子



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル	資産セミナー	JA名 JAなんすん (静岡県)
1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大口取引先に対する資産運用や相続等の情報提供および相談・提案対応をします。</li> <li>・ 金融資産セミナー開催後のフォローを確実にを行うことにより、対面機能の強化と顧客ニーズの把握を行います。</li> <li>・ 顧客との信頼関係を強化しJAの顧客基盤の充実に図ります。</li> </ul>	
2 概要	<p>「相続および遺言信託」についてセミナーを開催しました。</p> <p>題目は「円滑な財産の継承のために～安倍新政権でどう変わる、相続などの資産課税」です。</p> <p>定員 30 名(予約制)。大口取引先等を中心に集客し、出来る限りその次世代の方も同席していただくよう意識して集客活動を行いました。</p>	
3 成果 (効果)	<p>外部講師に依頼することにより、より専門的な、より分かりやすいセミナーが開催されました。また、次世代の方も参加いただけましたので後継者との繋がりも強化していきたいです。</p>	
4 今後の 予定 (課題)	<p>次世代、次々世代との関係強化はこれからも課題になってきますので、このセミナー開催が1つのきっかけとなるよう、今後のフォローをしっかりと行っていきたいです。</p>	

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 農業経営者セミナー J A 名 J A バンク滋賀信連 (滋賀県)

1 動機 (経緯)	滋賀県内の農業経営者を対象に、J A バンク滋賀における農業メインバンク機能発揮の取組みの一環として、J A グループとの今後一層の取引深耕・関係強化を目的に、県内で初めて開催されました。
2 概要	主催者：J A バンク滋賀信連 内容： ① 開催日 平成 25 年 3 月 3 日 ② 講演【第一部】 「強く儲かる農業をつくるには」 講師：ジャーナリスト 青山 浩子 氏 ③ 講演【第二部】 「伝統野菜を利用した 6 次産業化」 講師：農事組合法人 すごいええのう鮎川 顧問 小倉 剛 氏 ④ 情報提供 J A バンクの農業法人支援「アグリシードファンド」
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J A バンク滋賀が主催で、県内 J A を共催に、後援として中央会、全農、全共、及び農林中金として、開催したことにより、各連との連携が図れました。</li> <li>・当日は、約 400 名の方に出席をいただきました。</li> <li>・セミナーのアンケートでは、6 次産業化の取組が参考になったとの感想が多数みられました。</li> <li>・セミナー後、アグリシードファンドの詳細説明を個別に 9 法人実施しました。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイン強化先の農業経営者を対象にしましたが、個人の認定農業者、集落営農組織、特定農業団体、集落営農法人、(株)有法人、と多岐に参加され、アンケートの感想や要望も多岐にわたっていました。</li> <li>・J A の次課長からは、中央会が主催となると、県連の連携、J A 内の部門間連携がさらに図れたとの声が多くきかれました。</li> </ul>

## &lt;会場の様子&gt;





## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 農業資金説明会の開催

JA名 JAあいら (鹿児島県)

1 動機 (経緯)	農業者の農業資金の円滑な活用，経営分析に関する基礎知識の習得等地域に密着した金融機関を目指し，農業資金説明会を開催しました。
2 概要	担い手や農業の後継者を中心に参集し，農業資金の概要，農業経営における経営分析，労働災害補償について説明を行いました。
3 成果 (効果)	農業資金，農業経営に関する相談に対し，営農指導部門，経営指導部門と連携し，農業者に対する支援が図られています。
4 今後の 予定 (課題)	今後も継続した取り組みを実施し，低利で融通できる制度資金を活用し，農業経営の支援に努めていきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 降雹被害農家に対する融資対応
JA名 JAいわて南（岩手県）

1 動機 (経緯)	平成24年6月、JAいわて南管内の一部地域における降雹により、農作物に甚大な被害が発生し、被害を受けた組合員に対して経営及び運転資金を支援するための新資金を創設しました。
2 概要	対象者 : 平成24年6月の降雹により被害を受けた組合員 資金使途 : 農業経営に必要な経営資金、運転資金 (施設設備、機械購入等を除く) 貸付限度額 : 原則500万円以内 貸付期間 : 10年以内(うち据置2年以内) 貸付利率 : 保証料を含め無利子
3 成果 (効果)	『農業緊急対策資金』貸出実績 件数 : 4件 金額 : 11,700千円
4 今後の 予定(課題)	今後も災害等により、組合員の農業経営に影響を及ぼす事態が発生した場合には、組合員の経営安定化に向けた支援を行ってまいります。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル JAバンク自然災害対応特別資金の取扱い開始及びJAバンク自然災害対応特別資金利子補給実施要領の制定について
JA名 JAバンク岩手（岩手県）

1 動機 (経緯)	<p>JAバンク岩手では、被害が小規模または地域が限定されるなど、国や制度資金等の対応が困難な自然災害により被害を受けた農業者に対し、迅速な支援措置が図られるよう、農業経営に必要な経営資金等を低利で融資する「JAバンク自然災害対応特別資金」を創設しました。</p> <p>併せて、当該資金やJA独自の災害対応資金に利子補給を行うJAバンク自然災害対応特別資金利子補給実施要領を制定し、融資を受けた農業者に対しての借り入れ負担の軽減策を図りました。</p>
2 概要	<p>(1) 資金</p> <p>対象となる災害：被害が小規模または地域が限定されるなど、国や制度資金等の対応が困難な場合の災害</p> <p>対象者：上記災害により直接的または間接的に被害を受けた県内JA組合員</p> <p>資金使途：農業経営に必要な経営資金等</p> <p>貸付限度額：原則500万円以内</p> <p>貸付期間：10年以内（うち据置3年以内）</p> <p>貸付利率：JA及びJA岩手県信連からの利子補給を借入れの全期間受けることが可能。</p> <p>担保・保証：岩手県農業信用基金協会保証 (担保および保証人については必要に応じて徴求する。)</p> <p>(2) 利子補給</p> <p>利子補給率：最大年0.5%（借入れの全期間）</p> <p>利子補給機関：JA岩手県信連</p>
3 成果 (効果)	<p>JAが独自に創設した災害対応資金に対して利子補給を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利子補給件数 4件</li> <li>・利子補給金額 23千円</li> </ul>
4 今後の予定（課題）	<p>今後も災害等により、組合員の農業経営に影響を及ぼす事態が発生した場合には、組合員の経営安定化に向けた支援を行ってまいります。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 暴風・豪雪被害に伴う融資対応 JA名 JAバンク山形県（山形県）

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 24 年 4 月 3 日に発生した暴風による農業被害と記録的な大雪による融雪遅延および雪害に対して、山形県では「暴風・豪雪被害施設復旧等緊急支援資金」と「農林漁業天災対策資金」を創設しました。</li> <li>○ これを受け、県下 JA グループでは、農家・組合員の負担軽減のため、利子補給を実施することにより、無利子で借りられるように支援しました。</li> </ul>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「暴風・豪雪被害施設復旧等緊急支援資金」                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金使途 簡易な施設を含む農林漁業用施設の原状回復に要する経費</li> <li>・ 貸付限度額 300 万円</li> <li>・ 償還期限 8 年以内（うち据置期間 3 年）</li> </ul> </li> <li>○ 「農林漁業天災対策資金」                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金使途 種苗，肥料，薬剤購入費等の運転資金 簡易な施設の復旧のための資材購入費</li> <li>・ 貸付限度額 一般農業者 200 万円又は損失額 45%のいずれか低い額 果樹栽培者 500 万円又は損失額 55%のいずれか低い額</li> <li>・ 償還期限 3 年～6 年以内（被害程度により異なる）</li> </ul> </li> <li>○ 上記資金共通                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸付期間 平成 24 年 4 月 24 日～平成 24 年 8 月 31 日</li> <li>・ 貸出利率 2.65%（県，市町村，JA グループの利子補給により無利子）</li> </ul> </li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取扱実績 実行件数 38 件， 実行金額 133 百万円</li> </ul>
4 今後の 予定（課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ JAバンク山形県では、今後も災害等に伴う農家・組合員の融資相談，負担軽減に向けた取り組みを充実させていく所存です。</li> </ul>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 被災農家支援の取組について J A 名 J A伊達みらい (福島県)

1 動機 (経緯)	<p>当 J A では、合併当初以来 (平成 9 年) の 30 店舗体制を堅持し、組合員に寄り添った事業展開を行っており、組合員の「ふれあいの場づくり」および「組合員活動の拠点」としての機能を発揮するよう努めています。</p> <p>東日本大震災に伴う原発事故から 2 年が経過したものの、当 J A 管内の一部品目では放射性物質が検出され、出荷制限並びに生産自粛を余儀なくされています。</p> <p>また、農産物の販売に於いても、依然風評による価格低迷が解消されず、販売額の大幅な減少により農家所得は回復に至らない状況となっております。特に、本年は桃せん孔細菌病の多発も相まって、今後の産地維持・発展が大きな課題となっております。</p> <p>そこで、放射能被害からの早期復興に向けた当 J A 独自の取組みである「農業振興支援事業 (助成事業)」により、農家の生産意欲を喚起し、秋冬作物作付け拡大を図るとともに、県の制度資金である農家経営安定資金 (災害資金) を活用し、農家の資金繰りを積極的に支援することといたしました。</p>
2 概要	<p>(1) 農業振興支援事業 (助成事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①パイプハウス新設に対し、事業費の 50%以内で助成を行います。</li> <li>②せん孔細菌病防除 2 回以上の防除実施者の薬剤費に対し 5 百万円の範囲内で助成を行います (桃せん孔細菌病緊急防除支援事業)。</li> <li>③せん孔細菌病対策としての、園地防風ネット設置に対し 5 百万円の範囲内で助成を行います。</li> <li>④あんぼ柿の安定生産の為、干し場環境改善に係る設備、機器導入に対し事業費の 20%以内の助成を行います。</li> <li>⑤園芸施設における被覆資材購入者に対し 30%以内での助成を行います。</li> <li>⑥果樹苗木については、東日本大震災復興交付金による改植事業を要請します。</li> </ul> <p>(2) 農家経営安定資金 (災害資金)</p> <p>J A グループ福島と県は、県の制度資金である農家経営安定資金への利子助成を通じ実質無利子とし、被災された農業者の方々の営農と生活を守るため、その資金繰り等を支援しています。</p>
3 成果 (効果)	<p>(1) 農業振興支援事業 (助成事業)</p> <p>平成 24 年度は、「パイプハウス新設」が <u>98 百万円</u>、「せん孔細菌防除薬剤費」が <u>10 百万円</u> など、J A 助成金額合計で <u>109 百万円</u> の助成を行いました。</p> <p>なお、本事業は震災以降の <u>3 ヶ年</u> で合計 <u>470 百万円</u> の助成を行う予定です。</p> <p>(2) 農家経営安定資金 (災害資金)</p> <p>平成 24 年度の貸出実績は、<u>223 件</u>、<u>555 百万円</u> となっております。</p>
4 今後の予定 (課題)	<p>現在の出荷制限・自粛品目の再生、農畜産物に対する風評被害対策に重点を置き、震災以前の豊穡の郷を取り戻すべく、地域的条件による指導・年次的な改善対策を提案してまいります。こうした復興計画に前向きに取組む生産農家への支援策とし、平成 25 年度は、昨年度より予算を増額し農業振興支援事業を継続していくとともに、農家の資金繰り等も継続支援していく予定です。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 平成 23 年度東日本大震災復旧特別資金の創設 JA名 東西しらかわ (福島県)

1 動機 (経緯)	この度の「東日本大震災」による地震及び原発放射能事故により被害を受けた組合員の農業経営及び生活再建を支援するため、組合員農家が必要とする資金を低利にて融資し、農家経営の復興を支援するため創設しました。
2 概要	1. 資金の名称：平成 23 年度東日本大震災復旧特別資金 (H23. 4. 19 創設) 2. 貸付対象者：①地震等に被災した組合員 ②原発事故発生による国の出荷停止指示および風評被害により農業収入が減少した組合員 3. 資金使途： ① 農業経営に必要な資金 ② 生活再建に必要な資金 ③ 住宅修復、家財購入資金 ④ その他生産・生活に要する資金 但し、負債整理資金及び農業以外の事業資金は除きます。 4. 貸付金限度額 限度額 組合員個人・法人 500万円 但し、東日本大震災による農業収入減収額（見込み含む）の範囲内、または災害復旧にかかる費用の範囲内 5. 貸付利率：JA 所定の利率（固定金利） 6. 貸付期間：10 年以内 7. 保証および担保：福島県農業信用基金協会の保証、または連帯保証人 1 名以上とし、必要に応じて担保を徴求します。
3 成果 (効果)	平成 24 年 3 月 31 日～平成 25 年 3 月 31 日 【取扱実績】 件数 11 件 金額 2,176 万円
4 今後の 予定 (課題)	平成 25 年 3 月 31 日までの取扱期間を、平成 26 年 3 月 31 日まで取扱いを延長しております。今後もひとりでも多くの方にご利用いただけるよう、広報誌掲載・チラシ等で PR を実施してまいります。 また、地域農業の持続的な発展のため、利用者ニーズの把握に努めるとともに、農畜産物販売価格の急激な低迷・災害資金等で、利便性のある資金をいち早く提供できるよう農家組合員を支援して参ります。

震災原発対応資金の PR チラシの当該資金の一部抜粋を添付いたします。

## 東日本大震災・原発事故 対応資金のご案内

平成 25 年 4 月 1 日現在

◇平成 25 年度も引き続き取り扱いたします◇

資金名		貸付限度額	資金使途	貸付金利	貸付期間	保証	取扱期間
JA 独自 資金	地震・ 原発 平成 23 年 度東日本大 震災復旧特 別資金	個人・法人 500万円	営農および生活に要 する資金	JA 所定の利 率 (固定金利)	10 年以内	連帯保証人 1 名以上、必要 に応じて担保 徴求 (借入条 件により基金 協会保証可)	平成 26 年 3 月 31 日まで

※地震の被害を受けた方、原発事故による風評被害等を受けた方が対象となります。

◎詳しくは最寄りの JA 各支店までご相談下さい。

JA 東西しらかわ

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル：豪雨被害を受けた地域農業者に対する金融支援

JA名 JAみい (福岡県)

1 動機 (経緯)	平成 24 年 7 月 14 日の九州北部豪雨により当 JA 管内においても農作物を中心に多大な被害が発生しました。このような状況下、早急な農家組合員対応が望まれました。
2 概要	天災支援【従前の天災資金の中に特別枠を設けて対応】 貸付対象者 ・ 組合員 資金使途 ・ 九州北部豪雨による被害を受けての必要資金 貸付限度 ・ 年間経営費の 3/12 に相当する額、又は、粗収益の 3/12 に相当する額のいずれか低い額でかつ 300 万円以内 貸付利率 ・ 0.6% (別途保証料 0.3%) 貸付期間 ・ 5 年以内
3 成果 (効果)	出荷直前の農作物の被害に対し当座の運転資金・生活資金の支援。 被害から半月あまりでの貸付実施 (平成 24 年 8 月 1 日より実施) 早急な対応を行うことにより、資金面の不安を取り除くことができました。
4 今後の 予定 (課題)	今後の農業経営に影響を及ぼしかねない各要因 (経済・天候) に対しスピーディーに対応していきます。

 平成24年8月1日  
 みい農業協同組合

**九州北部豪雨により被災された皆様への天災資金(特別枠)貸出実施について**

この度の九州北部豪雨により被災されました方には謹んでお見舞い申し上げます。  
 又、一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

みい農業協同組合では、豪雨災害により被災された農家組合員の皆様をご支援させて頂くために平成24年8月1日より天災資金のなかに特別枠を設け下記のようにお取扱いいたしますのでお知らせいたします。

**天災資金(特別枠)貸出のご案内**

- 豪雨災害により被害を受けられた農家組合員に対し事業の運営が円滑に行えるようにスムーズな資金対応を行う。

貸出限度	貸出期間	利率	申込時ご用意いただく書類
年間経営費の3/12に相当する額、又は、粗収益の3/12に相当する額のいずれか低い額で、かつ300万円以内	5年以内	0.60%	確定申告書 3年分 (ただし青色申告会会員の方はJAにて準備いたします。)

※取扱期間はH24年12月28日までとする。

※基金協会保証料は0.3%とする。

※詳細につきましてはご遠慮なく各支店窓口までお問合せ下さい。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 有畑小学校の食育活動

JA名 JA十和田おいらせ（青森県）

1 動機 (経緯)	食卓に至るまでの一連の稲作体験および馬鈴薯植付作業をもとに、作業過程および多面的機能を学んでもらうとともに、米又は馬鈴薯に関する理解と農業へ感心をもってもらうため、町内の小学校へ打診したのがきっかけでした。 現在では、稲作体験は有畑小学校全学年、馬鈴薯については1・2・3年生を対象とした恒例行事となり、毎年約50名の児童及び保護者で賑わっています。
2 概要	① 稲作体験（面積：8a、品種：アネコモチ） ② 対象：有畑小学校全学年 5月下旬：田植え（保護者と一緒に手植え作業） 10月上旬：稲刈り（保護者と一緒に手刈り作業） 11月下旬：収穫祭（体育館にて保護者と一緒に餅つき）  ③ 馬鈴薯植付体験（面積1a 種 メークイン） ④ 対象：有畑小学校1・2・3年生 6月上旬：植付作業（指導者・近所の方の協力のもとに手植え作業） 9月上旬：収穫作業（指導者・近所の方の協力のもとに手堀り作業） 11月下旬：収穫祭（体育館にて保護者と一緒にふかしイモの試食）
3 成果 (効果)	スーパーや食卓でしか見ることがなかった、白米や馬鈴薯について、生育過程や作業過程を知ることができました。 「自らが育てたものを食べる」ことにより、「大事に」「残さず」といった、食べ物を大切にする児童の意識の変化が見られるようになりました。
4 今後の 予定（課題）	今後も学校と連携しながら、活動を継続したいと思います。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 青年部七戸支部の食育活動 JA名 JA十和田おいらせ (青森県)

1 動機 (経緯)	田植えから稲刈りまでの一連の稲作体験から水田の多面的機能を学んでもらい、米に関する理解と少しでも農業に対し感心をもってもらおうと、町内にある小学校へ打診したのがきっかけでした。 今では、町内2つの小学校5年生の学年行事となり、毎年約100名の児童及び保護者で賑わっています。
2 概要	①稲作体験 (面積: 12a、品種: アネコモチ) ②対象: 町内2小学校 5年生 6月上旬: 田植え (手植え、田植え機試乗) 10月上旬: 稲刈り (手刈り、コンバイン試乗) 11月下旬: 収穫祭 (それぞれの体育館にて保護者と一緒に餅つき)
3 成果 (効果)	頂いた感想文の中で、田植から稲刈りまでの体験を通じて、「お米をひと粒、ひと粒を大切に食べていこうと思いました」との感想がありました。 児童の感想文から、普段当たり前のように口にしているご飯を「大事に」といった声は、活動の成果です。
4 今後の 予定 (課題)	今後も学校とタイアップし、活動を継続していきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル おぼこアグリスクール

 JA名 JA秋田おぼこ（秋田県）

1 動機 (経緯)	普段食べている食物がどのようにして作られ、自分の口に入るまでにどれだけの人の手がかかっているか、1年を通して学ぶ機会を作ります。また、地域に暮らす人たちと関わる機会をもうけ、様々な考え方や文化を学ぶきっかけ作りをしています。
2 概要	農業体験（計4回） 第1回 5月下旬 田植え 第2回 7月中旬 田んぼの生き物調査 第3回 9月下旬 稲刈り 第4回 10月～ 料理教室（収穫したお米で）
3 成果 (効果)	参加小学校／神代小（仙北市）高梨小、南外小（大仙市）仙南東小（美郷町） 第1回 神代41名、高梨32名、南外15名、仙南東9名 第2回 神代41名、高梨32名、南外16名、仙南東9名 第3回 神代41名、高梨32名、南外15名、仙南東9名 第4回 神代41名、高梨32名、南外129名、仙南東9名
4 今後の 予定（課題）	おぼこ管内で未実施小学校を無くすよう継続させていく予定ですが、小学校との連携などJA職員のマネジメント力が重要です。営農部門だけの取り組みで終わらせず、金融共済・営農部門との連携をはかることが出来ないか提起していきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル いわき農山村ふれあい交流事業     JA名 JAいわき市 (福島県)

1 動機 (経緯)	次世代を担う市内の小学生と首都圏在住の小学生を対象に親子で農業体験を実施し、食の安全安心を伝えていくことを目的にJAバンクアグリサポート事業を活用した「いわき農山村ふれあい交流事業」を実施いたしました。
2 概要	7月に首都圏在住の小学生親子を対象に1泊2日の「太陽がふりそそぐいわきの自然を味わおう!!親子農業体験ツアー」を、また12月・2月には市内小学生親子対象の「寒いけどココロぽかぽか!冬の親子農業体験ツアー」「いわきの野菜でキッチンスタジアムいわきの産地を巡るバスツアー!」を開催し将来を担う子供達に農業への理解を深めてもらうとともに、安全で新鮮ないわきの農産物(放射能検査実施済み)に親しんでもらえるよう取り組んでいます。
3 成果 (効果)	7月・12月・2月の各回とも多数の応募があり抽選の結果、7月は親子10組、12月と2月は親子15組の参加となりました。 7月は、ブルーベリー・夏野菜の収穫体験また星空観察・花火体験を実施、12月と2月には、いちご・トマト等の収穫体験、調理師指導のもと収穫食材を使用した料理講習ならびに食の体験を行い、農作物収穫の喜びと新鮮な野菜のおいしさを味わってもらい、食の大切さを考えていただくことができました。
4 今後の 予定 (課題)	参加者からは毎回好評を頂いておりますので、今後も継続して開催し、子供たちの農業への理解促進と安全で安心ないわきの農産物に親しんでもらえるよう努めて参ります。

平成24年度 いわき農山村ふれあい交流事業  
「いわきの産地を巡るバスツアー!」行程表  
～いわきの野菜でキッチンスタジアム～



「いわきの産地を巡るバスツアー!」(親子15組) 平成25年2月2日(土)

時間	行程	備考
8:30	JAIいわき市飯野支店駐車場	集合 開講式
8:40	(移動)	出発
9:00	四倉町 大野水耕生産組合	いちご・とまと収穫体験(50分)
9:50	(移動)	出発
10:30	山玉町 加茂農産	なめこ収穫体験(40分)
11:10	(移動)	出発
12:00	小名浜 カルチェド シャン・ブリアン	キッチンスタジアム(150分)
14:30	(移動)	出発
15:00	JAIいわき市飯野支店駐車場到着	閉講式 解散

JAIいわき市

太陽がふりそそぐ  
いわきの自然を味わおう!!  
親子農業体験ツアー

7月21日(土) 22日(日)

参加対象 首都圏在住の小学生親子 定員 親子10組  
参加募集期間 ※6月29日(金)(必着)まで  
参加費 大人10,000円/1名 子供5,000円/1名  
※お申込み方法等、詳しくは、裏面をご確認ください。

【行程表】  
●1日目(7月21日(土))  
出発(8:00 東京駅 飯野橋駐車場) ⇒ (11:00 スパリゾートハワイアンズ:常設)開講式・施設見学、フラダンス見学(昼食・自由行動) ⇒ (17:45 小名浜オーシャンホテル:小名浜)星空観察・花火体験(夕食・風呂)  
●2日目(7月22日(日))  
出発(小名浜オーシャンホテル) ⇒ (8:30 小名浜氏・中岡町)ほっぺ見学・とうもろこし、なす、きゅうり、の収穫体験 ⇒ (10:00 草野グリーンファーム:小川) 草野平の施設見学・草野平の収穫体験 ⇒ (11:00 とまランドいわき:四倉) トマトの施設見学・トマトの収穫体験 ⇒ (12:00 大和自然農園:好美) ブルーベリー-収穫体験・どぜう作り体験(昼食) ⇒ 15:00 閉講式(東京駅へ出発:17:30頃到着予定) ⇒ 解散

※都合によりプログラムを一部変更する場合があります。  
お問合せ JAIいわき市 TEL.0246-28-9142 FAX.0246-28-9300  
【担当:飯野】 ※営業時間 9:00~17:00

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル あぐりスクール

J A 名 J A 佐野 (栃木県)

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食農教育の一環として次世代へ食と農の大切さを身をもって体験できる学校形式の取組。</li> <li>・今年度で4期目となり佐野市管内南・北2会場で98名児童の参加となり、毎年参加人数の規模が拡大されてきている。</li> </ul>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・J A佐野管内小学生を対象に98名の会員制で、年7回のイベントを開催する。</li> <li>・田植え・野菜収穫・キャンプ・J Aまつり等のイベントあり。</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元子供達の将来を考え、自然とふれあうことでふるさとのすばらしさを体感でき、子供達の今後生涯の思い出に残る貴重な体験ができる。</li> <li>・あぐりスクール企画を通じて親子のふれあいがより深まる体験ができる。</li> <li>・地域の方々との接点が図れ、J A総合事業を利用して頂くきっかけとなる。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に密着したJ Aになるために、本企画のような参加者が増加する様な企画の検討が必要になっている様に思います。</li> <li>・各部署ごとの企画でなくJ A全体規模でのイベントを開催していきたい。</li> </ul>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル：福井県 JAバンク 食農金銭教育応援事業 JA名 福井県信連（福井県）

1 動機 (経緯)	夏休み期間中に、金融・食農をテーマとした参加者とタレントとの体験学習型交流を実施、その模様をテレビ番組として収録・放送することで地域の子供たちに JAバンクの役割や、金融経済・食農教育・環境教育などに関する基礎知識の理解促進を図ることを目指しています。
2 概要	福井県内の小学校 5～6 年生 100 名で年 2 回ちびっこサマースクールを開催しています。 活動内容は、JAバンククイズ、野外炊さんカレーづくり、牧場での酪農体験、お金の仕組みの体験型講座等です。
3 成果 (効果)	タレントとの体験学習型交流を実施し、近年ではなかなか体験できない貴重な農業体験・金融経済の学習ができました。その模様をテレビ番組として収録・放送することにより、地域の子供たちに JAバンクの役割や、金融経済・食農教育・環境教育などに関する基礎知識の理解になりました。
4 今後の 予定 (課題)	様々な企画を検討しながら長期期間に渡り継続して開催していくことに効果があると考えております。

福井県 JAバンク presents

# ちびっこサマースクール

夏は子ども達にとって成長の季節!! 自然体験を通じて  
金融・経済・食農を学べる体験型学習を開催します。

第1回特別ゲスト  
タレント・俳優  
照英先生

第2回特別ゲスト  
経済アナリスト  
森永卓郎先生

元気な小学生 参加者募集!! 参加費無料

第1回ちびっこサマースクール  
開催日/2012年7月29日(日)～30日(月)  
日程/1泊2日 場所/県立奥越高原青少年自然の家

第2回ちびっこサマースクール  
開催日/2012年8月2日(木)～3日(金)  
日程/1泊2日 場所/福井県少年自然の家

対象 福井県内の小学校5～6年生  
※サマースクールのご参加はお子様のみ、保護者の方はご参加いただけません。  
※ご応募はお子様2名1組でお申し込みください。

締切 2012年6月29日(金)必着 定員 各25組(合計100名)  
※郵送での応募は、当日の消印有効。 ー詳しくは、裏面をご覧ください。ー

ちびっこサマースクールの模様は、テレビ番組で放送いたします!!

第1回放送 8月18日(土) 午前10:30～ 第2回放送 9月1日(土) 午前10:30～ 第3回放送 9月15日(土) 午前10:30～  
第1回再放送 8月25日(土) 午前10:30～ 第2回再放送 9月8日(土) 午前10:30～ ※放送予定日は変更になる場合があります。

FBC福井  
サマースクールの内容や  
詳細情報はホームページ  
TEL.0776-57-1000  
18～19:00～17:00

ちよぎんぎよしましょ! JAバンク  
詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお気軽にお問い合わせください。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル：食農教育活動

JA名：JAふえふき（山梨県）

1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>JAバンク教材本贈呈事業により食農教育にかかる補助教材を管内の小学校へ贈呈していますが、子供たちが、土や緑、水に触れ合う時間が減少傾向にあるなか、自分たちが食べている農産物がどのように作られているかを、教材本による学習のみだけではなく、実際に作り・食すことを体験してもらうために、JAバンク食農教育応援事業の一環として、休耕田を有効活用しながらお米を栽培する農業体験を実施しました。</li> </ul>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>笛吹市立八代小学校近隣の休耕田（10a）を活用し、同小学校の5年生80名が参加しました。</li> <li>6月：種蒔き（育苗箱へ種もみを蒔きました。）</li> <li>7月：田植え（生徒が育てた苗を植えました。）</li> <li>10月：稲刈り（鎌を使い慣れない手つきで稲刈りを実施しました。）</li> <li>12月：学校給食（全校児童・教職員・JA関係者総勢500名で食しました。）</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>種蒔きから始まり、収穫して学校給食として食べるまでの一連の過程を体験したことで、生徒からは「初めて田植えの体験をしました。」「お米作りの大変さが分かり、お米の大切さがよくわかりました。」などの感想が聞け、お米の大切さや農業への興味・理解が深まるとともに、保護者や学校関係者の方からも、食の大切さを学ぶ良い機会との好評を得ることができました。</li> </ul>
4 今後の 予定（課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>25年度も学校と協力しながら、お米作りの農業体験を実施予定です。</li> </ul>



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 食農教育活動

JA名

JAあいら伊豆（静岡県）

1 動機 (経緯)	JAバンク教育活動助成事業の助成を受け、地域の子供たちに農業体験を経験してもらい、地産地消の取組、地域農業への理解を深めてもらう事を目的としました。
2 概要	キウイフルーツ収穫体験を伊東市管内小学生 56 名を対象として実施した。 早生みかん収穫体験を熱海市管内小学生 60 名を対象として実施した。 教材本贈呈(熱海市、伊東市管内の小学校、特別支援学校に計 1,241 冊) 管内小学校給食に地元産みかんの贈呈
3 成果 (効果)	自分で収穫した物をその場で試食して、収穫の楽しさおいしさを知り、また、食の安全・安心について理解するきっかけ作りとなった。
4 今後の 予定(課題)	育苗、生育、収穫のサイクル全てを体験できるような事業を行える事が理想である。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル ふれあい田んぼ教室 JA名 JAなごや (愛知県)

1 動機 (経緯)	日本の主食であるお米を題材とした「ふれあい田んぼ教室-次世代を担うこどもたちに食農教育を-」は、農業のもつ様々な役割、意義、重要性などの理解を深めることを目的としています。なごや農協は、都市圏の全体に営業拠点があり、市街化区域と市街化調整区域が混在する農地を有している、都市部の小学生は水田における水稻栽培の実態や多面的機能を教材等にて知識習得しているが、実際に水田の作業を体験させ農業の重要性を肌で体験してもらうことを目的としました。
2 概要	水稻栽培における年間栽培方法を事前にスクリーンで解説して事前学習し、実際に昔行われていた手作業をあえて取り入れ、共同で行うことの協調性や「田植え」から「稲刈り」の一連の農業作業体験活動を実施する。田植え（児童）⇒水田管理（JA）⇒稲刈り（児童）⇒脱穀、籾摺り、精米（児童） その他、JAグループの機関紙（ちゃぐりん）を提供して、農業の多面的な機能や近代農業及び先進的な農業についても学習させています。
3 成果 (効果)	こどもたちの健やかな成長のため、『食育』にも効果としてあがり、水田における様々な動植物を実際に見ることや触れることで感受性の豊かな児童になると感じています。 また、地域の消費者へ子供からの報告により農協の事業を知っていただける。さらに、他金融機関と違う差別化が図れ農業の魅力を知っていただける。
4 今後の 予定（課題）	今後も名古屋市内の小学校を対象とした『ふれあい田んぼ教室』は継続して行いますが、市内の児童全てを対象とすることが困難なことから、少しでも多くの児童が体験できる仕組みを構築することが課題です。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル	食農体験学習の取組み	J A 名	J A 西三河 (愛知県)
1 動機 (経緯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達に、食料と農業への関心を高めるため、「食と農」への理解をより一層高めることが重要です。</li> <li>・このため、J A 西三河食農体験学習プランを掲げ、「稲づくり体験学習」、「野菜づくり体験学習」、「家族『食・農』体験農場」を3つの柱として、学校教育での支援、食農体験、農産物提供に取り組んで展開しています。</li> </ul>		
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J A 西三河において、以下の農業体験学習に取り組んでいます。</li> <li>○「稲づくり体験学習」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田植え、かかしづくり、稲刈り、ちゃぐりん（広報誌）の提供、収穫祭（餅つき・おにぎり作り・米粉パン作りなど）。</li> </ul> </li> <li>○「野菜づくり体験学習」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春野菜種まき、定植、春野菜収穫、秋野菜種まき、定植、秋野菜収穫。</li> </ul> </li> <li>○「家族『食・農』体験農場」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏野菜の定植、夏野菜の収穫祭、冬野菜の定植、さといも収穫祭、いちご雨避けトンネル設置作業、冬の収穫祭（ロールキャベツ・ケーキ作り）、畑の片付け。</li> </ul> </li> </ul>		
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲づくり体験学習を開催する学校を15小学校に拡大しました。</li> <li>・ 参加家族については、J A の P R を行い、今後の利用拡大につながりました。</li> <li>・ 食農体験学習を通じて、子ども達が「食と農」により一層興味をもち、食の大切さを実感してもらいました。</li> <li>・ 参加家族や子ども達と、J A との親近感が深まりました。</li> </ul>		
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の食農体験学習に取り組むにあたって、以下のことが重要です。</li> <li>①子ども達をより一層「食と農」の関心を深めること</li> <li>②学校教育の一環として取り組んで、体験してもらう</li> <li>③「食と農」を通じて、「家族」「友達」「地域」の絆を深める</li> <li>・ 食農体験学習を今後継続的に展開していく中で、参加いただいた家族や子ども達に、J A 事業を幅広くご利用していただけるように、取り組んでまいります。</li> </ul>		

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル JA鳥羽志摩あぐりスクール

JA名 JA鳥羽志摩（三重県）

1 動機 (経緯)	JA鳥羽志摩管内の小学校3年生を対象に、農業体験を通じて「収穫の喜び」や「自然・いのち・食べ物大切さ」を学んでもらうことを目的として実施しました。(今年度は20名が参加)
2 概要	お米作り(田植え・追肥・収穫)の農作業体験から、自分たちで作ったお米の食事会や「あぐり米」としてJAまつりでの販売体験を実施しました。
3 成果 (効果)	お米作りの農業体験を通じて、農業の大変さや収穫の喜びを知り、参加者からは好評を得ています。 また、生徒たちのみならず父兄の方々にも食と農業への関心が深まり、JAバンクとしても若年層へのPRに繋がっています。
4 今後の 予定(課題)	今後も継続的に実施する予定です。 次世代を担う地域の子供たちが、もっと食と農業へ関心が持てるよう、充実した食農教育を企画、立案していくことが課題と考えています。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル「JA草津市食農教育農業図画展」の開催 JA名 JA草津市（滋賀県）

1 動機 (経緯)	食農教育教材本を贈呈した市内各小学校5年生を対象に、夏休みを利用して、教材本や体験により学んだ農業に関する思い思いのイメージを図画に表してもらうことにより、夏休み中における農業への興味や食農教育に対する関心を少しでも向上させることを目的として「JA草津市食農教育農業図画展」を開催しています。
2 概要	作品テーマ（2部門） ① 農業とわたし（農業体験、農業風景等） ② ごはん大好き（ごはんを食する場面等）  優秀者には賞状と記念品を贈呈し、最優秀賞を受賞した児童には農業祭で表彰式を行います。また、応募作品すべてをJA草津市農畜産物交流センター内にて翌年3月まで展示しています。
3 成果 (効果)	平成24年度は、「農業とわたし」が53点、「ごはん大好き」が47点の計100点の図画が寄せられました。 作品に積極的に取り組むことが子供たちの食と農業に対する将来に向けた意識の向上に繋がっています。
4 今後の 予定（課題）	平成23年度から開始した図画展ですが、今後も継続開催する予定です。

①表彰式の様子



②展示の様子



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 「ふれあい農園」で農と地域に密着

JA名 JA兵庫西（兵庫県）

1 動機 (経緯)	JA職員が野菜栽培等の実践に励むことで、農業の苦勞を体感し、自らの営農スキルを高めることと地域の人々とのふれあいの場として農園を活用するため、全支店で「ふれあい農園」を設置しました。
2 概要	<p>平成 24 年 4 月から、全 62 支店の店舗の近くに「ふれあい農園」を設置し、サツマイモやトウモロコシ、トマト、キュウリ、ナス等の季節野菜を植え、窓口職員をはじめ支店の職員が業務終了後などに協力しながら農園を管理しています。</p> <p>地元農家からアドバイスをいただいたり、管理面での援助があり、来店される非農家のお客様には、収穫した野菜を配布するなど、地域との絆を深めています。</p> <p>さらに、地域の子どもたちが野菜の定植や収穫に参加することもあり、食農活動の実践の場として利用しています。</p>
3 成果 (効果)	<p>平成 24 年度には、ふれあい農園で園児や小学生を招いての体験学習が JA 全体で 70 回開催され、保護者も含めて延べ 9,265 人が参加しました。</p> <p>JA 職員でありながら、農業体験をしたことのない職員が、農業の苦勞・大変さを実感することにより、組合員との会話の中で、農業に対する考え・意見を共感できるような変化が生じています。また、栽培上での失敗を体験することによって、栽培意欲の向上が見られ、PDCA サイクルが実感できる例になっています。</p>
4 今後の 予定 (課題)	<p>地域で最も愛着があり、頼りにされる金融機関を目指す為の一環として、ふれあい農園の地域住民への活用状況に対して、評価制度を設け優秀な支店に対して表彰を行ないます。</p> <p>また、営農スキルの向上に伴い、同一品目を栽培し、JA 内で農産物コンテストも計画しています。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 「たつのハートごはん」イベント

JA名 JA兵庫西（兵庫県）

1 動機 (経緯)	食の大切さ、とくに日本人の主食であるお米の美味しさを広めるための活動です。
2 概要	たつの市、地元企業、JA等が連携し、幼稚園や小学校等を訪問し、かまどを使った炊飯体験や家庭科の出前授業を実施し、美味しいごはんを食べ、楽しくごはんのことを学び、自然にごはん好きになる機会をすることにより、子供たちからその家族へ、さらには地域の方々へごはんの大切さを伝えていこうと考えています。
3 成果 (効果)	かまど炊飯体験を通してごはんの美味しさを実感してもらうことにより、ごはん食の大切さ、米の消費拡大のPRができました。 また、農家・JA・地域住民の相互理解・絆づくりの場として活用しています。
4 今後の 予定 (課題)	平成 25 年度も引き続き開催予定です。

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル 子供向け金銭教育セミナーの実施

JA名 JAバンク和歌山 (和歌山県)

1 動機 (経緯)	地域密着型金融として、小学生を中心とした子どもたちに「お金の大切さ」を学ぶ機会を提供し、またその保護者であるヤング・ミドル世代との交流を通して、取引深耕につなげるきっかけとして実施しました。
2 概要	JAバンク協調型事業にかかる取組みとして、昨年に引き続き、子供向け金銭教育セミナーを実施しました。参加者は各JA管内の小学生とその保護者とし、外部講師（FP和歌山 土井氏）を招き以下のカリキュラムで実施しました。 1. 世界のお金 2. 欲しいものと必要なもの 3. ホームステイゲーム
3 成果 (効果)	本年度は、模擬紙幣による「1億円の重さ体験」を冒頭に実施し、子どもたちにより金融を身近に感じられるものとなりました。またJA職員もJA役として登場し、地域住民と更なる親睦を深めることができました。
4 今後の 予定 (課題)	25年度も継続実施いたします。

## 【会場の様子】



※アラビア風装束が土井講師

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 親と子の野菜スクール

JA名 JA佐伯中央 (広島県)

1 動機 (経緯)	JAバンク協調型事業教育活動助成事業を活用したJA食農教育の展開により、食の大切さ、農業への理解を深めてもらうことを目的に実施しています。
2 概要	JA食農教育の一環として、当組合管内の小学生児童を持つ家族に参加していただき、野菜の植え付け、草取り、収穫、料理と一連の過程を通して土に触れ、農作物を栽培し農業を身近に感じていただくとともに、管内農家見学を含め家族で農産物・農業理解を深めていただいています。
3 成果 (効果)	平成 23 年度は 16 家族が参加、平成 24 年度は 18 家族が参加、平成 25 年度についても 20 家族が参加を予定しており、参加家族・人数ともに増加してきております。 (従来取引の無かった方も参加をきっかけに、JAを身近に感じ、取引開始となった方もいらっしゃいます。)
4 今後の 予定 (課題)	参加家族・人数を増やしたいと思いますが、対応に限度があり、形を変えたJA食農教育の展開が必要と考えています。 (野菜品種別の体験農業や他JAとの交流会等)

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 食農体験学習

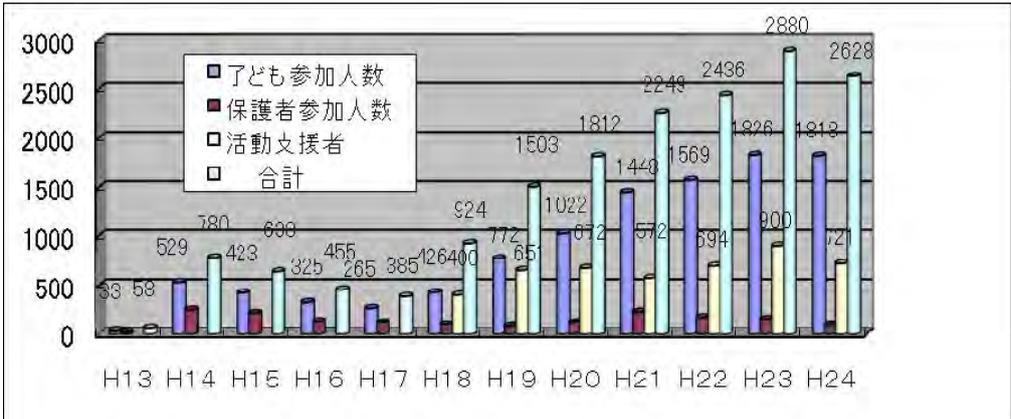
JA名 JA三原（広島県）

1 動機 (経緯)	<p>食卓に至るまでの一連の稲作体験と作業過程および多面的機能を学んでもらうとともに、米に関する理解と農業へ関心をもってもらうため、総合学習の時間に学校水田を活用しての児童たちが豊かな自然と農業の営みを伝える食農教育の一環として農業体験学習への取り組みがきっかけでした。</p> <p>現在では、稲作体験は総合学習の時間を利用しての恒例行事となり、平成24年は、160名の児童・教員が関わっています。</p>
2 概要	<p>毎年、児童たちが、JA三原の職員の指導のもと、田植えからの1年を通しての農業体験学習を行っています。</p> <p>5月に学校内の水田に植えた苗が立派に育ち、9月に稲刈り・脱穀が行われました。1月21日、刈り取った稲のもみすり・精米の体験学習をしました。</p> <p>精米されたお米は、授業でおにぎりにして、「上級生の作ったおかず」といっしょに、美味しくいただきました。</p>
3 成果 (効果)	<p>毎日の米について、生育過程や作業過程を知ることができました。</p> <p>また、いつもは袋詰めのお米も、自らが育て「もみから玄米」・「玄米から白米」の変化を体験することによって、農と食の「大事さ」、農業を身近に感じ、「好き嫌い」、「食べ残しが少なくなる」など食べ物を「大切に」する意識を深めることが出来たと思います。</p>
4 今後の 予定(課題)	<p>例年、体験学習の為の栽培となっていたため、水稻の生育があまり良くなかったため、次年度のための土づくりから行い、今後も学校と連携しながら、活動を継続したいと思います。</p>

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル JA三次ちゃぐりんキッズクラブ

JA名 JA三次 (広島県)

1 動機 (経緯)	農業の近代化が進み、子どもたちが土になじみ家畜とふれあう機会もなく、ふるさとの大切さや、命の大切さを学ぶ場所がなくなったこと等の社会的背景より、家の光協会からの次世代対策実施要請を受け、平成13年度全国のモデルJAとして、2支店で立ち上げました。また、平成14年度から小中学校が完全週休2日制となり、土曜日の過ごし方が課題となった事などから、継続して支店の地域活動として、ちゃぐりんキッズクラブを広めていきました。																																																																	
2 概要	地域の小学校や自治会組織、JA女性部・農青連等と連携を行い、支店を中心とした、地域の特色ある食農教育活動を展開しています。 カリキュラムの基本としては、農産物の種まき・植付けから、収穫・加工までとし、支店によっては販売まで行っております。 主に米づくりが主体で小学校の総合学習の時間を活用していますが、その他、さつま芋・大豆・そば・小麦・山の芋など、地域の特産物を育てながら、地域の歴史や風土を学ぶ取組も行っています。																																																																	
3 成果 (効果)	地域の小学校と連携をする中で、行政とも食育（食農）に対する意識の共有ができ、毎年合同会議を開催しています。 また、JA三次管内での参加者数は会場数ともに増え、地域の活動としてなくてはならない活動に定着してきています。 「ちゃぐりんキッズクラブの参加者数推移」(述べ人数) <div data-bbox="395 1267 1406 1686" style="text-align: center;">  <table border="1" style="margin: auto;"> <caption>「ちゃぐりんキッズクラブの参加者数推移」(述べ人数)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>子ども参加人数</th> <th>保護者参加人数</th> <th>活動支援者</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H13</td><td>529</td><td>58</td><td>58</td><td>645</td></tr> <tr><td>H14</td><td>780</td><td>423</td><td>325</td><td>1528</td></tr> <tr><td>H15</td><td>600</td><td>455</td><td>265</td><td>1320</td></tr> <tr><td>H16</td><td>385</td><td>426</td><td>400</td><td>1211</td></tr> <tr><td>H17</td><td>772</td><td>65</td><td>924</td><td>1761</td></tr> <tr><td>H18</td><td>1022</td><td>872</td><td>1440</td><td>3334</td></tr> <tr><td>H19</td><td>1503</td><td>572</td><td>1569</td><td>4644</td></tr> <tr><td>H20</td><td>1812</td><td>594</td><td>1826</td><td>5232</td></tr> <tr><td>H21</td><td>2249</td><td>900</td><td>1913</td><td>6062</td></tr> <tr><td>H22</td><td>2436</td><td>721</td><td>2628</td><td>7785</td></tr> <tr><td>H23</td><td>2880</td><td></td><td></td><td>2880</td></tr> <tr><td>H24</td><td>2628</td><td></td><td></td><td>2628</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	子ども参加人数	保護者参加人数	活動支援者	合計	H13	529	58	58	645	H14	780	423	325	1528	H15	600	455	265	1320	H16	385	426	400	1211	H17	772	65	924	1761	H18	1022	872	1440	3334	H19	1503	572	1569	4644	H20	1812	594	1826	5232	H21	2249	900	1913	6062	H22	2436	721	2628	7785	H23	2880			2880	H24	2628			2628
年度	子ども参加人数	保護者参加人数	活動支援者	合計																																																														
H13	529	58	58	645																																																														
H14	780	423	325	1528																																																														
H15	600	455	265	1320																																																														
H16	385	426	400	1211																																																														
H17	772	65	924	1761																																																														
H18	1022	872	1440	3334																																																														
H19	1503	572	1569	4644																																																														
H20	1812	594	1826	5232																																																														
H21	2249	900	1913	6062																																																														
H22	2436	721	2628	7785																																																														
H23	2880			2880																																																														
H24	2628			2628																																																														
4 今後の予定 (課題)	現在は小学生を対象とした活動が中心であるので、幼児や中高生、保護者を対象とした食農教育を企画提案していきたいと思えます。																																																																	

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル JAバンク協調型事業

JA名 JA山口宇部 (山口県)

1 動機 (経緯)	子どもを対象に地元農家組合員と職員とが一体となり食農教育実践活動を展開し、「食」と「農業」に対する理解の振興をはかり、農業やJAのファン層の拡大および地域の発展に貢献することを目的に開校する。
2 概要	JA山口宇部管内の幼児から中学生以下の子供と保護者を対象に誘致し、JAこども情報誌「ちゃぐりん(家の光協会)」を教科書として、子供に食べ物や農業を通じて、いのちの大切さを伝えている。農業を体験したり、地元野菜の収穫や調理をしたり、地元の名人に工作を学んだり、たくさんのふれあい体験を行う。
3 成果 (効果)	次世代・次々世代層とJA(地元農家組合員・職員)とのふれあい活動により新たなJA利用の拡大につながっている。また本学級において地元の米や野菜をPRすることで地産地消の促進も図れ、協力いただいた農家組合員の生産意欲の向上にもつながっている。
4 今後の 予定(課題)	後添のとおり平成25年度についても年間を通して活動を予定しております。

## 平成 25 年度 ちゃぐりん学級開校内容(予定)

開催年月日	開催内容	開催場所
平成 25 年 6 月 8 日 (土)	<a href="#">“晴るる”田植え体験 大学生と産地交流会</a> 【昼食-カレー&バーベキュー】	宇部市小野区来見の圃場 ※JA 小野支店に集合。
平成 25 年 6 月 16 日 (日)	<a href="#">「大豆」植付体験 秋の収穫に向けて植えよう!</a> 【ちゃぐりんを活用した工作または料理】	阿知須の圃場
平成 25 年 7 月 6 日	「とうもろこし」「おくら」植付体験 「とうもろこし」「おくら」を植えよう! 【ちゃぐりんを活用した工作または料理】	アクトビレッジ小野
平成 25 年 9 月上旬	「とうもろこし」「おくら」収穫体験 「とうもろこし」「おくら」を食べよう! 【ちゃぐりんを活用した工作または料理】	アクトビレッジ小野
平成 25 年 10 月 5 日	“晴るる”稲刈り体験 大学生と産地交流会 【昼食-未定】	宇部市小野区来見の圃場 ※JA 小野支店に集合。
平成 25 年 11 月初旬	「大豆」収穫体験 採れたて「大豆」を使って料理教室	阿知須の圃場
平成 25 年 11 月上旬	豆腐づくり体験 採った「大豆」で豆腐を作ろう!	JA山口宇部本店
平成 25 年 12 月上旬	しめ縄づくり体験 JA山口宇部「農業まつり」にて 【昼食-うどん、ちらし寿し】	JA山口宇部本店 3階特設会場
平成 26 年 2 月中旬	漬物づくり体験 地元農産物で「漬物」をつくろう! 【昼食-漬物を使ったメニュー】	JA山口宇部農産加工場
平成 26 年 3 月上旬	米粉でつくる寝太ロール みんなでつくろう! 地産地消 体験 【昼食-未定】	山陽小野田市

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル	ちびっこ倶楽部	J A 名	J A 周南	(山口県)
1 動機 (経緯)	J A 食農教育とは、「食」・「農」・「地域」・「自然」の関わりを重視し、農産物がいのちを育み、成長していく過程を大切にしながら、食への関心・興味を高揚し、食を支える農の役割、くらしと社会との関わり、地域の食文化、いのちの大切さに対する理解を広げ深めることです。こうした取組みを通じて、食と農、地域と J A を結び、地域住民の J A への地域支持率向上を目指します。			
2 概要	①じゃがいもを育てよう ・じゃがいもの植え付けとソーメン流し IN 鹿野… 8 月 4 日 (土) ・じゃがいもの収穫とじゃがいも料理 IN 鹿野… 11 月 18 日 (日) ②バケツ稲づくり体験&ピーマンを育てよう ・バケツ稲を植えよう&プランターにピーマンを植えよう… 5 月 26 日 ・バケツ稲観察とピーマンが育ったな?… 観察投稿 ・ピーマンで作る親子料理教室… 夏休み期間中 ・お米まつりでお米の収穫勉強会… 11 月 3 日 (土) ③親子で作るクリスマスケーキ… 12 月 22 日 (土) ・西部地区… J A 新南陽支所 ・東部地区… 下松市健康増進課			
3 成果 (効果)	①地元農産物への理解促進 安全・安心な農産物を供給することとあわせて J A 食農教育活動を地産地消の理解者や農業への関心を深め、J A 事業への理解者を増やすことにつながった。 ②組織基盤強化 地域住民の参加や各組織との連携を図り、次世代も含めた幅広い層の理解と支持を地域に広げることができた。			
4 今後の 予定 (課題)	今後は支所を中心とした食農教育活動にするとともに、植え付けから販売までの体験を通じて、若い年代への農や地元農産物への理解を深めるとともに、J A ファンづくりに結びつける。			



## 地域密着型金融の取組事例（報告様式）

 タイトル J A子育て定期積金 J A名 J A下野（栃木県）

1 動機 (経緯)	春の新入学時に金利上乗せ定期積金の募集を開始し、年間を通じて世帯主から乳幼児までの幅の広い層からの情報収集を活かし、残高の向上と今後の新たな取引に結びつけ貯蓄拡大を図る。
2 概要	<p>J A子育て定期積金推進運動要領</p> <p>1、趣 旨 春の新入学時に金利上乗せ定期積金の募集を開始し、年間を通じて世帯主から乳幼児までの幅広い客層からの情報収集を行い、残高の向上と今後の新たな取引に結びつけ、貯蓄拡大を図る。</p> <p>2、実施内容 (1) 名 称 ・ J A子育て定期積金 (2) 実施期間 ・ 平成24年3月1日（木）～平成25年2月28日（木） (3) 商品内容 金利上乗せ定期積金 対象者は個人のみ (J Aしもつけ管内に住所または勤務地を有していて契約時点で15歳未満の子と同居または扶養している親権者1名)</p> <p>3、対象商品 ①種類 定期積金（定額式） ②契約期間 2年以上7年以内 ③給付契約額 300万円以内 ④預入形態 証書（7年以内） ⑤払込方法 口座振替 ⑥適用金利 以下の条件に該当する方に利率を上乗せする。 条件 J Aしもつけ管内に住所または、勤務地を有していて15歳未満の子と同居または、扶養している親権者の方。（子供1人につき） …店頭表示利率に0.10%上乗せ</p> <p>4、注意事項 (1) 毎月掛金の一括払込は該当させない。 (2) 上乗せ条件確認書類 ①健康保険証又は母子手帳 ※上記書類は必ずコピーをして別途情報管理に備えるため保管・管理すること。 (3) 金利上乗せは市場金利の動向により変動する可能性がある。</p>
3 成果	獲得件数 5件 給付契約額 7,704,508円
4 今後の予定 (課題)	次年度も継続して子育て定期積金の取組を行う予定です。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル1. ふるさと応援！「JA足利エール定期貯金」
タイトル2. JA足利からお贈りする農業資金プラン「小口農業資金」

## JA名 JA足利（栃木県）

1 動機 (経緯)	1. 平成24年度夏期特別貯蓄運動の商品として 2. 農業近代化資金を補完する資金として、低金利で簡便な申込手続きとする「小口農業資金」を融資商品のラインナップに加え、地域農業の振興および農業メインバンクとして機能を強化する。
2 概要	1. 期間中にお申込みいただいた定期貯金総額の0.02%を「ふるさと足利応援寄付金」として足利市に寄付。 ※寄付金については、JA足利が寄付するものでお客様のご負担はない。 金利上乗せについて JA足利発行のJAカードご契約の方（新規可） 店頭金利に年0.1%を上乗せ 上記以外については、店頭金利に年0.05%を上乗せ 2. 1事業につき300万円とし、所要資金の範囲内 農産物代金振込またはJAカード契約者（新規可）の方に借入期間5年以内で対応。 貸出利率：JA所定利率 担保・保証：貯金担保、共済担保または連帯保証人
3 成果 (効果)	1. 2,305件 2,549,160千円 【寄付金 509千円】 2. 7件 11,000千円
4 今後の 予定（課題）	1. 平成25年度夏期特別貯蓄運動の商品として ・期間中にお申込みいただいた定期貯金総額の0.02%を「ふるさと足利応援寄付金」として、足利市に寄付 ※お客様の負担はない。 ・前年度の「エール定期貯金」と同様としています。 ※本商品が好評であったことから、「エール定期貯金」を定着化していく方針。 2. 広く組合員に認知され好評頂いていることから、平成25年度についても同様の取組みとしています。

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 緑のトラスト定期貯金 JA名 JAいるま野 (埼玉県)

1 動機 (経緯)	地球の温暖化、海洋汚染、野生生物の減少など環境保全の重要性が年々高まる中、JAいるま野は、埼玉県が主導する「緑のトラスト運動」に賛同し、県内の優れた自然や森林資源を守る環境保全活動として昨年に引き続き「緑のトラスト定期貯金」を発売し、販売額の一定割合を寄付することにより、緑のトラスト保全地の保全に協力します。 さらに今年度は、地元の自然とふれあい、環境保全の大切さを実感してもらうため、管内にある緑のトラスト保全地を訪ねるオリジナルエコツアーを企画し、応募者の中から抽選で20組(40名様)を招待します。
2 概要	貯金種類：スーパー定期貯金 期間：1年及び3年 金利：1年 0.05% 3年 0.15% 募集金額：50億円 募集期間：平成25年1月4日～平成25年2月28日(約2ヶ月間)
3 成果 (効果)	①募集金額50億円に対し、実績額は54億5,187万円(計画対比109%) 契約件数は、3,367件となりました。 ②エコツアーについては、当日雨天のため中止しました。 ③埼玉県を始め管内行政へ寄付を行いました。(寄付の総額は、実績額の0.05%相当にあたる270万円です。)
4 今後の 予定(課題)	平成25年度においても同様に募集を行い、販売額の一定割合を寄付する計画を立てています。

**緑のトラスト Green Trust 定期貯金 with eco tour**

「緑のトラスト定期貯金」の残高の0.05%相当額を「さいたま緑のトラスト基金」と「吾市町みどりの関連の基金」へ寄付いたします。  
お集積のご負担はございません。

平成25年 1/4(金)～2/28(木) 募集期間

1年もの **0.05%** 3年もの **0.15%**  
税引後 0.0396% 税引後 0.1195%

募集期間中、新規ご契約者の中から、抽選で **20組40名様オリジナルエコツアーへご招待**  
 トラスト保全地域内の **自然観察会とタケノコ掘**

募集期間中、皆様でご参加いただける方に、

**JAいるま野 オリジナルエコメモ帳**  
3,000名様抽選プレゼント

緑のトラスト定期貯金 商品概要

貯金対象：スーパー定期1年もの及び3年もの(無残白紙振替)。  
 借入限度：10万円以上1,000万円未満(1円単位)  
 対象者：個人の方に限ります。  
 募集期間：5/24(金)～5/24(金)まで(申込、販売終了とさせていただきます)  
 金利：1年もの 0.05%(税引後0.0396%)  
 3年もの 0.15%(税引後0.1195%)  
 中途解約：中途解約については、JAバンクの解約利率が適用されます。  
 応募方法：応募用紙をご用意しております。ご契約時に記入ください。  
商品の詳しい内容は、各店舗の取扱説明書をご確認ください。

0120-88-3641  
フリーダイヤル受付時間/平日AM9:30～PM5:00

JAいるま野  
JAバンク

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 農業体験懸賞付定期積金 JA名 JAいるま野 (埼玉県)

1 動機 (経緯)	農業体験を通じて農家と消費者を結ぶ場を設け、農業の大切さを地域住民の方々に体感・認識して頂くとともに、昨年度契約した方にも農業体験募集を行い「農業体験懸賞付定期積金」の目的を広く認識してもらい、地域農業振興の一助に資するものとします。
2 概要	名称 : 「育て! 希望の実」 期間 : 3年 (毎月1万円以上) 金利 : 店頭表示金利+0.05% 募集期間: 平成25年1月4日~平成25年2月28日 農業体験: じゃがいも掘り (平成25年7月) ゆず狩り (平成25年11月) 粗品: ハーブの種付きしおり
3 成果 (効果)	①実績額: 14億8,256万円 (給付契約金額ベース) ②契約件数: 1,234件 ③農業体験応募者: 123人
4 今後の 予定 (課題)	平成25年度においても同様に募集を行うとともに、新たな農業体験を計画しています。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 子育て応援定期貯金・定期積金 JA名 JAほくさい (埼玉県)

1 動機 (経緯)	地域金融機関として、お子様の未来と共に、子育て家庭を応援することを目的として取扱い致しております。									
2 概要	「子育て応援定期貯金・定期積金」 ご利用いただける方：中学生までのお子様を子育てされている方又は妊娠中の方 で、埼玉県の子育て家庭への優待制度である「パパ・ママ 応援ショップ」優待カードを所有されている方（店頭にて 提示が必要となります） 定期貯金(自動継続)：スーパー定期(1年) 店頭表示金利+0.1% (当初1年間のみ) 定期積金(自動振替)：3年未満 店頭表示金利+0.2% : 3年以上 店頭表示金利+0.3%									
3 成果 (効果)	平成 24 年度実績 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>契約件数</th> <th>契約額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期貯金</td> <td>26 件</td> <td>17,117 (千円)</td> </tr> <tr> <td>定期積金</td> <td>42 件</td> <td>25,674 (千円)</td> </tr> </tbody> </table>		契約件数	契約額	定期貯金	26 件	17,117 (千円)	定期積金	42 件	25,674 (千円)
	契約件数	契約額								
定期貯金	26 件	17,117 (千円)								
定期積金	42 件	25,674 (千円)								
4 今後の 予定 (課題)	平成 25 年度 (平成 25 年 4 月 1 日 (月) ~ 平成 26 年 3 月 31 日 (月)) も引き続き 応援致します。									

**JAほくさいは**  
お子様の未来を応援しています。

期間：平成 25 年 4 月 1 日 (月) ~ 平成 26 年 3 月 31 日 (月)

**子育て応援  
定期貯金・定期積金  
発売中!**

●ご利用いただける方  
中学生までのお子様を子育てされている方、又は妊娠中の方

<p style="text-align: center;"><b>定期貯金 (自動継続)</b></p> <p>スーパー定期 (1年)</p> <p>店頭表示金利 + <b>0.1%</b> (上乗せ金利は当初の1年間となります。)</p>	<p style="text-align: center;"><b>定期積金 (自動振替)</b></p> <p>●3年未満 店頭表示金利 + <b>0.2%</b></p> <p>●3年以上 店頭表示金利 + <b>0.3%</b></p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ご契約の際、  
パパ・ママ応援ショップ優待カード  
の提示が必要となります。

**JAほくさい**  
詳しくは近隣の支店窓口へお問い合わせください。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 子育て応援定期積金 JA名 JA埼玉中央 (埼玉県)

1 動機 (経緯)	地域金融機関として、子育て家庭を応援することを目的として取扱いしています。
2 概要	<p>18才未満のお子様を1人以上養育されている扶養者で、かつその扶養者とお子様の住所が同一である方、又は、パパ・ママ応援ショップ優待カードをお持ちの方に限ります。</p> <p>保険証、住民票、母子手帳等でお子様の年齢、人数を確認させていただきます。</p> <p>お子様1人以上の場合 +0.1% 金利上乘せ                  お子様2人以上の場合 +0.2% 金利上乘せ                  お子様3人以上の場合 +0.3% 金利上乘せ</p>
3 成果 (効果)	<p>平成24年度取扱実績</p> <p>契約件数 14 件</p> <p>契約金額 13,693 千円</p>
4 今後の 予定 (課題)	平成25年度も引き続き取り扱いをしており、子育て家庭を応援しています。

JA埼玉中央は子育て家庭を応援しています。

平成22年 4/1 ~協賛期間 終了月まで

## 子育て応援定期積金

優遇利回りでバックアップ!

お子様 1人以上の場合	店頭表示 金利 <b>+0.1%</b> 上乗せ 金利
お子様 2人以上の場合	店頭表示 金利 <b>+0.2%</b> 上乗せ 金利
お子様 3人以上の場合	店頭表示 金利 <b>+0.3%</b> 上乗せ 金利

●お金を先払いするお取引はできません。●解約・中途解約はできません。●協賛期間中に20%の優待がなくなります。※詳しくは、各支店窓口におたずねください。

JA埼玉中央

## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 子育て支援への取り組み JA名 JA世田谷目黒（東京都）

1 動機 (経緯)	現在の少子化社会を踏まえ、組合員等が子育てをして行く上で、自己住宅の取得資金や教育費の支払資金を低利で融資することをもって家計に優しく安心して子育てができる環境を地域金融機関として応援するため、平成22年3月より取り扱いを始めました。
2 概要	JA東京統一ローン基準金利に適用される住宅ローンのうち商品名『ずっと一律軽減型』『はじめに大きな軽減型』のいずれかの固定金利タイプを適用対象とし、子供の人数によって軽減します。(最大-0.3%)
3 成果 (効果)	平成24年度は3件8,400万円のご融資を実行しました。 お子様のいる家庭では生活費や教育費もかかるので、子供の人数により金利が軽減される仕組みは、とても好評をいただいております。
4 今後の 予定(課題)	組合員との相談業務を中心に業務展開している当JAの基本方針のもと、今後の金利動向を注視しながら、当面は継続して多くの方にご利用していただきたいと考えます。



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル：地域農業応援資金「耕シタイゾーさん」の創設

JA名 福井県信連（福井県）

1 動機 (経緯)	地域農業の振興と発展を目指し、農業者等の経営安定や規模拡大・生産性向上などを一層推進することに必要な融資を行うことを目的として、この資金を創設しました。
2 概要	貸出対象者：組合員、組合員の組織する団体、法人 貸出限度額：事業費の100%以内かつ5,000万円以内 貸出期間：25年以内または減価償却耐用年数のいずれか低い方 資金使途：①設備資金（農地取得・造成・改良、農機具の購入、施設等建設） ②運転資金 金利：JA所定の利率 保証人：原則、福井県農業信用基金協会の保証 担保：必要に応じ徴求
3 成果 (効果)	チラシ・ポスターを作成、統一キャラクター「耕シタイゾーさん」を設定し、PRを行っております。 平成25年1月より取扱いを開始し、5月末で32件、95,800千円の実績があります。
4 今後の 予定（課題）	今後とも農業者の相談・推進活動に努め、PRを行い、多くの組合員にご利用いただきたい。



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 平成 24 年度秋冬キャンペーン

J A 名 長野県 J A バンク (長野県)

1 動機 (経緯)	「地産地消」や「地域に根ざした J A バンク」をテーマに、「J A らしさ」を追求した取り組みとして、平成 24 年度県下統一秋冬キャンペーンにおいて、長野県産農畜産物等を景品とした懸賞品付定期貯金「Slow 風土」(スローフード)を発売しました。(平成 21 年度から取組中。)
2 概要	キャンペーン名：長野県 J A バンク 秋冬キャンペーン 2012 商品名：懸賞品付定期貯金「Slow 風土」 キャンペーン期間：平成 24 年 10 月 1 日～12 月 28 日 商品概要： <ul style="list-style-type: none"> <li>・預入期間 1 年以上のスーパー定期貯金、大口定期貯金</li> <li>・20 万円を一口として抽選券を付与し、抽選により、「信州の特産品」および「東北の「うめえ」ものをプレゼントいたします。</li> <li>・期間中ご契約いただいた方に、「ちょきんぎょトラクター (玩具)」か「ちょきんぎょバスマット」をプレゼントいたします。また、東北五大祭のうちから二大祭を巡る、バスツアーへ参加いただけます。参加者の方には、「ツアー代金 5% 引き」「東北地方のお土産のプレゼント」をいたします。(ツアーは平成 25 年 8 月実施予定)。</li> </ul>
3 成果 (効果)	県下で 364 億円のお申し込み実績があり、大変好評を頂いているため、今後も継続していく予定です。
4 今後の 予定 (課題)	アンケート調査でいただいたご意見等を反映し、さらに身近に J A バンク、J A らしさを感じていただける商品として、引き続き実施していく予定です。



## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 市民女子サッカークラブ『伊賀FCくノ一』応援企画

J A名 J A伊賀北部（三重県）

1 動機 (経緯)	地域の女子サッカークラブである伊賀FCくノ一の活動をサポートし、地域に暮らす子供たちにサッカーを通じた夢を与え、地域の活性化を図る。
2 概要	伊賀市の伊賀FCくノ一ブランドの商品開発を行い、地元開催試合の会場や市場を中心に販売しました。 また、信用事業においては、伊賀FCくノ一応援定期積金「情熱！応援団」を発売し、契約者には抽選で選手の直筆サイン入りのレプリカユニフォームなどの応援グッズのプレゼントを実施しました。 その他、飲料水の自動販売機に伊賀FCくノ一バージョンを設定し、伊賀FCくノ一応援プロジェクトによる収益の一部を活動費として寄贈しました。
3 成果 (効果)	J Aが市民クラブである伊賀FCくノ一を応援することにより、地域の子供からお年寄りまで年齢を超えて、一緒に地域を盛り上げる有意義な活動となりました。当活動により J Aのイメージアップ、伊賀FCくノ一の観客動員数増加と相乗効果が生まれ、地域に密着した金融機関であることをアピールすることが出来ました。
4 今後の予定 (課題)	今後も地域と一体的に資金クラブである伊賀FCくノ一を応援していきたいと考えています。

JAバンク 伊賀FCくノ一応援定期積金  
 25周年  
 情熱!応援団!! 2012  
 7/2 (土) ~ 9/31 (土)  
 JAいがほくぶと一緒に  
 伊賀のみなさんで  
 『伊賀FCくノ一』を  
 応援しよう!  
 期間中、新規定期積金(満期1年以上・建付総額12万円以上)ご契約の方に  
 JAいがほくぶ  
 合計25回分  
 プレゼント  
 積立で25名様に  
 (直筆サイン入り)と(選手直筆サイン入り)  
 くノ一レプリカユニフォーム  
 プレゼントします!  
 JAバンク、JAいがほくぶ、伊賀FCくノ一の協賛による活動です。伊賀FCくノ一の収益の一部を活動費として寄贈いたします。伊賀FCくノ一の収益の一部を活動費として寄贈いたします。伊賀FCくノ一の収益の一部を活動費として寄贈いたします。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル「農業体験付貯金(じゃがいもオーナー貯金)」 JA名 JA加古川市南(兵庫県)

1 動機 (経緯)	地域密着型金融機関かつJAらしさをPRする企画として、組合員や次世代を担う若年層、子供たちを対象とし、農業体験を通じ「農業のあり方」・「食のあり方」を楽しみながら理解していただく事を目的として開発しました。
2 概要	平成21年のスイートコーン収穫体験を第1弾として今回が農業体験付貯金の第4弾です。 農業体験付貯金とは、貯金契約をしていただいた顧客に家族ぐるみで農作物(今回はじゃがいも)の植付・収穫を体験してもらう商品です。 作付地は、有志の組合員農家の農地を利用、日常の管理は経済部が行います。 植付・収穫当日は、JA職員が参加者とともに農作業を行いふれあいの場としています。 今回は、約50名の参加をいただき、たくさんのじゃがいもを収穫しました。 収穫したじゃがいもは、お土産としてお持ち帰りいただくほか、別畝で収穫したじゃがいもを職員がその場で調理し、試食していただいています。
3 成果 (効果)	農業体験付貯金は、金融共済部と経済部が共同企画し、第1回(平成21年)のスイートコーン収穫体験以降、毎回、契約者の皆様には好評をいただいております。 毎回、契約していただく「固定客」もでき、この企画を通じ、JAらしさをPRでき、子供たちにも「農業のあり方」を楽しみながら実感していただいています。
4 今後の 予定(課題)	総合事業の強みを発揮し、地域1番の金融機関を目指して、JAをもっと身近に感じていただけるような活動・取組みを企画・実施していきます。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 個人定期積金「野菜倶楽部」の販売 JA名 JA兵庫西 (兵庫県)

1 動機 (経緯)	JAとして総合事業の付加価値を創造し、組合員・地域の利用者との深耕を深めるとともに、食の「安心・安全」、「地産地消」といった消費者ニーズに応えるため、当JA直営店「旬彩蔵」での野菜引換券付き定期積金を、平成24年4月2日(月)～平成24年6月29日(金)、平成24年10月1日(月)～平成24年12月28日(金)の間、各限定1,000口座ずつ募集しました。
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者 個人</li> <li>・給付契約額、期間 36,000円以上、1年以上5年以下</li> <li>・野菜引き換え期間 平成24年 5月1日(火)～7月31日(火) 平成24年11月1日(木)～平成25年1月31日(木)</li> <li>・引き換え商品 該当時期における販売野菜2品目</li> </ul>
3 成果 (効果)	多くの契約者のご好評いただき、販売期間終了を待たずして完売しました。 契約件数 1,000件 給付契約額 212,406千円  地域農業とJAの取組みへの利用者の理解が深まり、「旬彩蔵」のPRと新規取引者の開拓に繋がりました。
4 今後の 予定(課題)	好評につき、25年度も販売を実施予定です。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 生産物出荷者限定個人定期積金「ほほえみがえし」の販売

JA名 JA兵庫西 (兵庫県)

1 動機 (経緯)	当JA直営店「旬彩蔵」出荷者及び出荷予定者に向け、より一層の取引深耕と絆の強化を図るため、平成24年4月2日(月)～平成24年6月29日(金)の間、限定1,000口座を募集しました。
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者 個人で当JA直営店「旬彩蔵」の出荷者及び出荷予定者</li> <li>・給付契約額、期間 36,000円以上、1年以上5年以下</li> <li>・契約記念品 ビニール手袋</li> </ul>
3 成果 (効果)	多くの契約者にご好評いただきました。 契約件数 906件 給付契約額 191,901千円  JAの担当者とお荷者との絆をさらに深め、取引の拡大とJAのイメージアップを図りました。
4 今後の 予定(課題)	組合員のニーズに応えるべく、更なる商品開発を目指します。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル 「黒田官兵衛定期貯金」の販売とそれに伴う寄付金贈呈について

JA名 JA兵庫西（兵庫県）

1 動機 (経緯)	当JA管内ゆかりの武将「黒田官兵衛」の大河ドラマ決定をPRするとともに、管内にある世界文化遺産、姫路城の改修工事に伴う寄付金を募集するため、平成24年11月12日(月)～平成24年11月30日(金)の間、預入総額200億円限定で募集しました。
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者 個人</li> <li>・預入期間 6ヶ月</li> <li>・金利 年0.40%</li> <li>・寄付金概要 預入総額の0.025%相当額を当JAから姫路城の改修工事費用として寄付する(契約者負担はなし)</li> </ul>
3 成果 (効果)	多くの方にご好評をいただき、販売を終了いたしました。 預入総額 153億円 寄付金総額 3,831,700円 寄付先 姫路市  定期貯金契約者とともに地域貢献を果たし、JAのイメージアップを図りました。
4 今後の 予定(課題)	今後も地域活性化のため、「黒田官兵衛」をモチーフにした商品を販売する予定です。

## 地域密着型金融の取組事例について

タイトル「ふぁ～みんな食農教育支援金」

J A 名 J A 兵庫南（兵庫県）

1 動機 (経緯)	J A 兵庫南では、平成 22 年から、食と農の理解を深めてもらうとともに、世代間交流を促し『地域活性化』を図ることを狙いに「ふぁ～みんな食農教育支援金」地業を行っています。 支援金は、環境保全対策の一環として、直売所のレジ袋の廃止により達成できたコスト削減結果と、教育資金の一部を加えることでまかっています。
2 概要	<p><b>地域において食農教育活動に取り組む団体を応援します。</b></p> <p>地域の各団体等が、幼稚園等に出向き、園児・父兄とともに芋掘り体験をする等の食農教育活動の経費を「ふぁ～みんな食農教育支援金」により助成しています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>【交付基準】</b></p> <p><b>1・対象団体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①JA 兵庫南管内に所在する学校（保育園・幼稚園・小学校・中学校）</li> <li>②上記管内に該当する地域の団体（自治会・老人会・子ども会・女性会・農業団体など）</li> <li>③本支援金からの支援の必要性がないものや営利を目的とする団体の活動は対象外となります。</li> </ul> <p><b>2・対象活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 農業体験（植付け・収穫）</li> <li>② 地元食材を使った料理教室・コンテスト</li> <li>③ 食農に関する講演会</li> <li>④ その他、この支援金を支払うに相応しいと審査会において認定された活動</li> </ul> <p><b>3・支援金額と支援対象範囲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 1 事業に対する支援金は、総事業費の 1/2 以内とし 5 万円を限度とします。</li> <li>② 支援対象範囲は資材費・講師謝礼金・印刷費・通信運搬費・会議費など</li> <li>③ JA 兵庫南の食農教育支援金以外から活動支援金を受けられる場合は申請できません。</li> </ul> </div>
3 成果 (効果)	平成 24 年度は 42 団体、延べ約 16,000 名の参加がありました。 それぞれの活動の中で世代間交流が促せ、地域活性化につながりました。その波及効果は大きく、コストパフォーマンスが高いといえます。
4 今後の 予定（課題）	平成 25 年度も同内容で実施いたします。既に 46 団体から申請があり年々増えています。 食農教育支援金制度の更なる広報をおこない、利用件数を拡大します。

地域密着型金融の取組事例について

タイトル JAバンク和歌山の「ピンクリボン運動」

JA名 JAバンク和歌山 (和歌山県)

1 動機 (経緯)	今後の取引基盤の中心となっていくヤング世代を中心に、JAが地域に貢献し社会的役割を果たす金融機関であることをPRし、更なるイメージアップを図ることを目的に実施しました。
2 概要	20歳以上39歳までの女性を対象とし、定期積金(毎月積立額一定額以上)の契約がある顧客に乳がんの検診を受けていただくにあたって、JAが1名あたりの検診費用4,500円(税別)を上限として(金額は各JAで設定)助成を行うものです。  検診日時は平成24年11月から12月の土曜・日曜日/8:30~12:30でJA毎に設定しました。
3 成果 (効果)	店頭で乳がんセルフチェック法を記載した「リーフレット」を常備し、検診申込者だけでなく、興味を持った来店者に配布し、ピンクリボン運動を通じて、JAバンクが地域密着型の金融機関であることのアピールができました。
4 今後の 予定(課題)	25年度も継続実施の予定です。



JAバンク和歌山は、ピンクリボン運動の趣旨に賛同し、地域の皆さまに乳がんへの関心を持っていただくため、3つの取組みを行います。

- ① 月に1度のセルフチェック方法を多くの人へセルフチェック(自己検診)方法をまとめたリーフレットをJA窓口にご用意しております。ご自由にお持ち帰りいただけますので、お気軽にご来店ください。  
(配布期間/平成24年9月30日~10月31日)
- ② JAバンク和歌山から寄付を行います。乳がん検診用機器の購入費用に充ていただくため、JAバンク和歌山から財団法人和歌山県民総合健康センターに寄付いたします。
- ③ 乳がん検診の機会をご提供いたします。子育てやお仕事に忙しい世代の皆さまに、乳がん検診(エコー)の機会をご提供いたします。検診日・検診内容等、詳しくはチラシをご覧ください。なお、お住まいの自治体(市町村)の乳がん検診を受診できる方は、そちらを優先ください。(実施期間/平成24年9月30日~10月31日)

あなたと大切な人のために~  
**Pink Ribbon**

ピンクリボン運動とは…  
ピンクリボン運動は乳がんの早期発見と早期治療を目的に、定期検診やセルフチェックの大切さを伝える国際的な活動です。ここ数年、日本でもピンクリボン運動は盛んに行われており、乳がんは早期発見と治療により、高い確率で治療するものの1つであることを伝えています。

JAバンク  
**ピンクリボン運動**

JAバンク和歌山  
JAバンク和歌山 和歌山県民総合健康センター

JAわかやま TEL:073-471-3732  
JAながみね 全農本部 TEL:074-466-6132  
JA配州中央 全農本部 TEL:0736-62-6870  
JAグリーン日高 全農本部 TEL:0736-63-3000  
JA紀の里 全農本部 TEL:0739-71-7000  
JAみなべいなみ 全農本部 TEL:0739-72-5993  
JA北かわかみ 全農本部 TEL:0739-64-0020  
JA紀南 全農本部 TEL:0739-29-3016  
JAあびだ 全農本部 TEL:0735-62-2316  
JAみくまの 全農本部 TEL:0735-52-5807



ピンクリボン運動  
月に一度は乳がんの自己検診を

自己検診の結果、異常を感じたら、ためらわず専門医の診察を受けましょう。その際は、乳癌外科・外科を受診しましょう。

ピンクリボン運動は乳がんの早期発見と早期治療を目的に、定期検診やセルフチェック(自己検診)の大切さを伝える国際的な活動です。ここ数年、日本でもピンクリボン運動は盛んに行われており、乳がんは早期発見と治療により、高い確率で治療するものの1つであることを伝えています。  
JAバンク和歌山はピンクリボン運動の趣旨に賛同し、地域の皆さまに、セルフチェック(自己検診)の方法を知っていただき、参加を促しています。

～月に1度のセルフチェック～  
セルフチェック(自己検診)はすぐにお店や自宅でも簡単にできます。このリーフレットには、検診の方法として、鏡に向かって行う方法と、入浴中に立つ方法の2通りが紹介されています。詳しくはチラシをご覧ください。実行、セルフチェックを実施しましょう。変化に気づきやすくなります。

JAバンク  
**ピンクリボン運動**

JAバンク和歌山  
JAバンク和歌山



## 地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 新エコ割 JA名 JAバンク香川（香川県）

1 動機 (経緯)	地域金融機関の競争激化により、県下JAの信用事業を取りまく環境が一層厳しくなるなか、収益基盤の拡充策の1つとしてJAバンクローン伸長に取組むため、地球温暖化防止に向けての社会貢献事業として政府が掲げる「住宅版エコポイント制度を活用し、「エコ割」を平成22年4月に開始しましたが、エコポイントの工事対象期限の終了（平成23年7月31日）に伴い、「エコ割」から「新エコ割」に名称を変更しました。 「エコ割」の対象者はエコポイントが確認できる方でしたが、「新エコ割」の対象者は次の住宅を新築・改築した方としました。 ○オール電化住宅 ○ガス省エネ住宅 ○太陽光発電住宅 ○長期優良住宅
2 概要	上記に該当する住宅を平成26年2月28日までに着手または着工し、JA住宅ローン等の新規借入申込者に対して金利軽減対応を行うJAを対象に、信連が利子補給を行う仕組みです。
3 成果 (効果)	平成24年3月から平成25年2月までの住宅ローン新規実行は204件、エコ割の申請は150件となりました。
4 今後の 予定	ご利用者に好評を頂いており、継続して取扱いを行っていく予定です。

## 地域密着型金融の取組事例について

## タイトル みやざき農商工連携応援ファンドへの融資

J A 名 J A 宮崎信連 (宮崎県)

1 動機 (経緯)	本県の中小企業者と農林漁業者が連携し、商品開発・販路開拓・技術開発・人材育成等の農商工連携の取り組みを支援する目的で創設する基金（債券運用する資金（原資））の借入申し込みがあり、本県経済の活性化及び農林漁業者の支援につながっていくと思われること、宮崎県全体としての取り組みの中で、系統金融機関として地域活性化に貢献できると判断して応需したものです。
2 概要	基金の管理運営法人である宮崎県産業振興機構は、独立行政法人中小企業基盤整備機構・宮崎県・宮崎銀行・宮崎太陽銀行・本会から調達した資金により地方債で運用を行い、運用益により助成事業等へ充てています。 当財団の基本的な運営方針は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本県の基幹産業である農林水産業と中小企業との連携による研究開発・商品開発・販路開拓等の取り組みを支援することにより、地域経済の活性化を図ります。</li> <li>・ 農林漁業者と中小企業の連携がなされることにより本県の農林水産業の生産拡大や高付加価値化・ブランド化の推進に寄与・注力します。</li> <li>・ 燃料価格高騰などにより、農林漁業だけではなく産業全般にわたり、先行きに不透明感・不安感が広がっている中で、本県の農林漁業や中小企業の支援にも積極的に取り組みます。</li> </ul>
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成21年度より助成事業の公募が開始され、平成24年度末時点で第8回までの公募が終了し、計57件の事業が助成事業として採択されています。</li> </ul>
4 今後の 予定 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活性化に貢献する取組みとして非常に有意義であり、今後も継続して官民連携した取組みを行ってまいります。</li> </ul>

 農商工連携  
 応援ファンド  
 パンフレット (表)


農商工連携  
応援ファンド  
パンフレット（裏）

- 「農商工連携」とは：  
農林漁業者と中小企業者が連携し、お互いの経営資源を活用して、経営の改善・向上を目指す取組で、地域産業の活性化につながるものと期待されています。また、このような取組を支援するため、平成20年5月に「農商工等連携促進法」が制定されました。
- 「みやざき農商工連携応援ファンド」とは：  
宮崎県が県内の農商工連携の取組を本県独自に応援するため、独立行政法人中小企業基盤整備機構や県内金融機関の協力を得て、平成21年3月に宮崎県産業支援財団に設置された総額約25億円の基金です。この運用益を使って、各種助成を行います。

- 助成対象事業の概要  
「みやざき農商工連携応援ファンド」で助成する事業は以下の3事業です。
- ①農商工連携新商品開発等支援事業  
(対象事業) 中小企業者と農林漁業者の連携体が行う新商品・新サービスの開発や市場動向調査、人材育成、販路開拓に要する経費に対し助成  
(補助率) 2/3以内  
(助成限度額) 新商品開発 5,000千円、販路開拓 5,000千円  
(事業期間) 新商品開発 2年以内、販路開拓 単年度
- ②農商工連携新生産技術等開発支援事業  
(対象事業) 中小企業者と農林漁業者の連携体が行う農林水産物の生産や加工に必要な機械、装置、生産システム等の開発・研究に対し助成  
(補助率) 2/3以内  
(助成限度額) 5,000千円 (事業期間) 3年以内
- ③農商工連携支援機関活動助成事業  
(対象事業) 農商工連携事業を支援する団体が行う中小企業者や農林漁業者への助言・指導、普及啓発活動(セミナー等)に要する経費に対し助成  
(補助率) 10/10以内 (助成限度額) 5,000千円 (事業期間) 単年度

- 農商工連携に関する相談は：  
宮崎県産業振興機構(新事業支援課)のほか、経済産業省から「地域力連携拠点」の指定を受けた県内4団体(宮崎商工会議所、都城商工会議所、宮崎県商工会連合会、国富町商工会)や宮崎県中小企業団体中央会で行っています。
- 国の支援措置は：  
「農商工等連携促進法」に基づいて事業計画の認定を受けた農林漁業者と中小企業者の連携体については、法に基づく支援措置(信用保証、減税、融資制度等)が受けられるほか、経済産業省や農林水産省の助成制度もあります。

- 事業への応募方法は：  
年に2回程度(予定)の公募を行う予定です。  
公募の際には、助成金交付要領に基づく、事業計画書の提出していただくほか、各分野の専門家で構成する審査委員会の席で事業計画のプレゼンテーションを行っていただきます。
- 事業の詳細、助成金の申請書は：  
宮崎県産業振興機構ホームページでダウンロードできます。 <http://www.i-port.or.jp/>

公益財団法人 宮崎県産業振興機構HPより